国際協力事業団
研修事業部

韓国青年招へい事業
대한민국 청년 초청 사업

JICA LIBRARY
1096630(7)

23431

1991

青業
JR
91—720

国際協力事業団
23431

信頼と友情への第一歩
신뢰와 우정에의 첫걸음

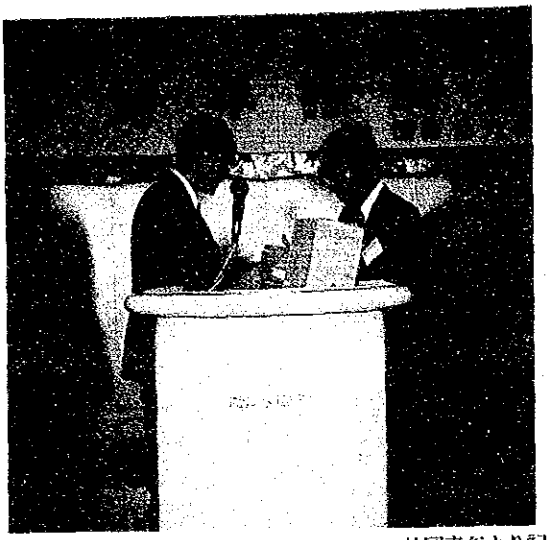
平成3年度韓国青年招へい事業
1991년도 대한민국 청년 초청사업

歓迎会
〈환영회〉

国際協力事業団よりあいさつ
국제협력사업단 인사

韓国公使南洪祐氏よりあいさつ
한국대사관 南洪祐공사님 인사

韓国青年代表よりあいさつ
한국 청년단 단장님 인사



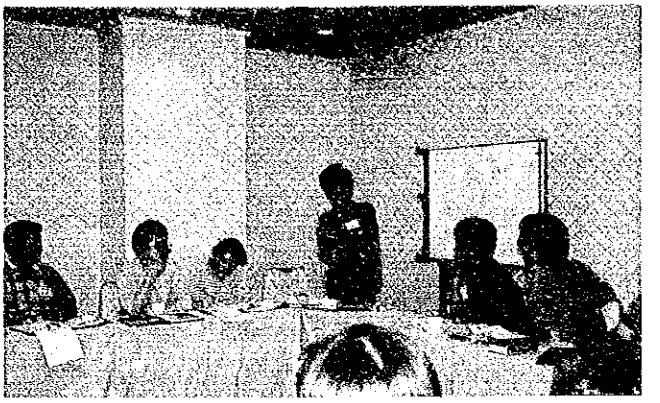
韓国青年より記念品を受けとる
한국청년으로부터 기념품 전달

期待に胸ふくらます
기대에 가슴을 부풀리고

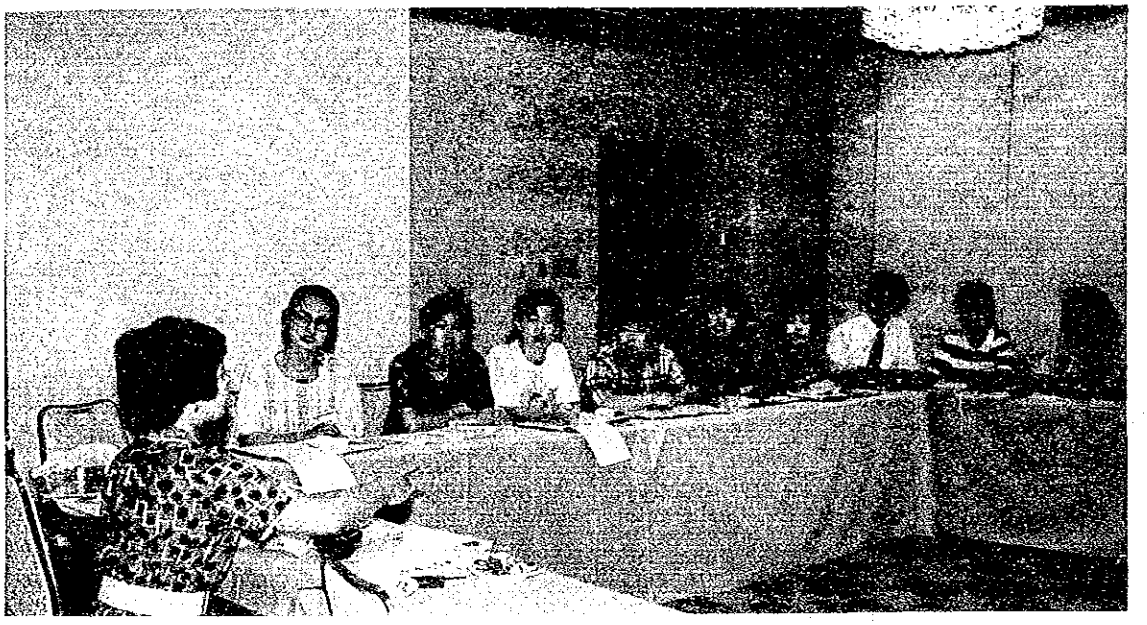
あでやかなチマ・チョゴリ、そして笑顔
화려한 한복차림, 그리고 미소

なごやかな語らい
따뜻한 대화

共通プログラム
〈공통프로그램〉



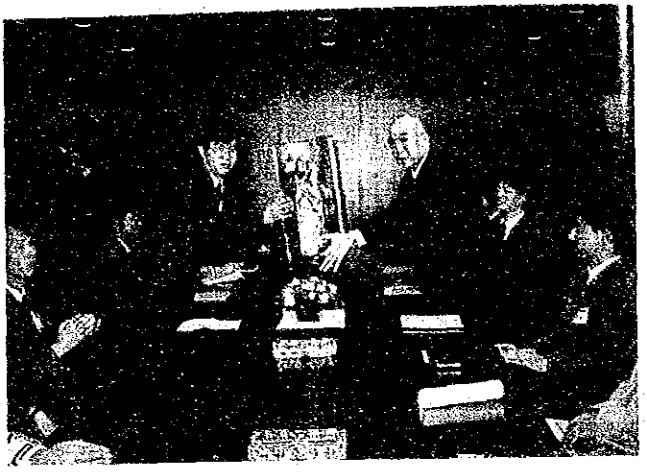
楽しく学ぶ日本語授業
즐겁게 배우는 일본어 수업



ハジメマシテ　ワタシノナマエハ…
처음 뵙겠습니다. 제 이름은……

さあ　皆さん　ご一緒に　日本語サロン
자 여러분 모두함께 (일본어 살롱)

リラックスした講義風景
부드러운 강의풍경

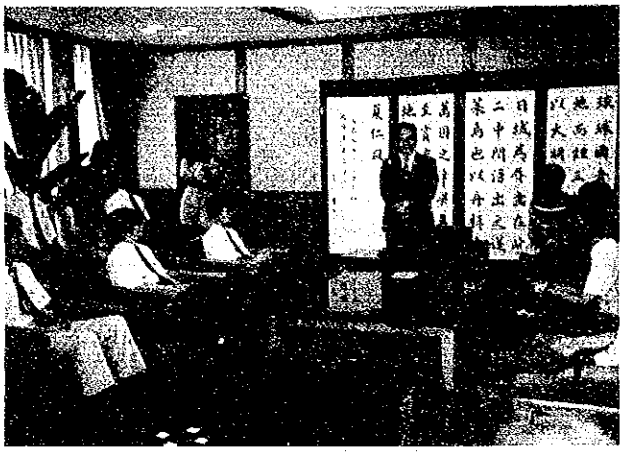


労働大臣表敬
노동부장관 예방

合宿セミナー
〈세미나〉

話し合い大好き、でもバーベキューも…
이야기꽃 만발, 게다가 바베큐도……

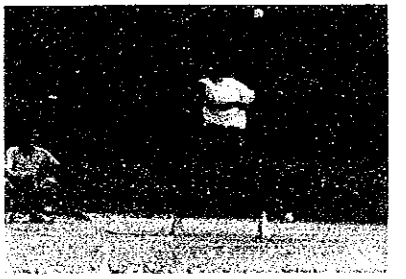
地方分野別プログラム
〈지방분야별 프로그램〉



思わず緊張する表敬訪問
무의식중에 긴장하는 인사방문

どうです？　決まっているでしょう？
어떻세요？ 물어보나 마나죠

気合の一発
기세의 한방



潮風を一杯にうけて　瀬戸内海クルージング
바닷바람을 가르며 瀬戸内海크루징

ナイス・ショット!?　カメラさん危ない！
나이스・숏!? 카메라맨 위험해！

よく似てるでしょう。実は姉妹？
아주 닮았죠. 사실은 자매？

笑顔でお別れ
すぐまた会えるもの
웃으면서 작별,
곧 다시 만날텐데요뭐

工場概要説明に熱心に耳を傾ける
공장개요 설명에 열심히 귀를 기울린다

国際通信施設を見学
국제통신시설 견학

ガラス吹きにチャレンジ
유리불기에 첼린지

見学旅行
〈견학여행〉

平和記念公園にて　広島
평화기념공원에서 (広島)

どこか懐かしい感じがします　京都・清水寺
어쩐지 친근한 느낌이 드네요 (京都 清水寺)

歓送会
〈환송회〉

盛り上がりも最高潮　日韓合同パフォーマンス
흥겨움도 최고조, 한일합동장기자랑

この笑顔をいつまでも
이 웃음을 언제까지나

友情よ永遠に　たくさんの思い出をありがとう
우정은 영원히, 가득한 추억에 감사해요.

韓国青年招へい事業

序

「韓国青年招へい事業」は、1987年より５カ年計画で開始され今年度は、勤労青年、学生、教員および青年指導者の４グループ98名を受け入れて無事終了することができました。この５カ年間に招へいした韓国青年は496名に達し、そのひとりひとりとわが国青年との友情のきずなは、青年の帰国後も文通等によって深められています。日本青年が韓国青年を訪ねるなどの動きも活発化しつつあると聞き及び、本計画がわが国と韓国との友好・親善の一端を担っていることをうれしく思っております。

本報告書は、招へい青年の代表、合宿セミナーに参加した日本青年およびホームステイを引き受けていただいた全国の家庭の皆様から寄せられた感想文を中心に、招へい青年の１カ月の滞在記録をとりまとめたものです。本事業の実施に当たっては、感想文を紹介させていただいた方々を含め、多数の方々のご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。皆様にとって本報告書が思い出の一助となり、また参加者の体験をより多くの方々に共有していただくことができれば幸いです。

終わりに、本計画の実施に温かいご理解とご協力をお寄せ下さいました関係者の皆様に重ねて謝意を表しますとともに、わが国と韓国との友情のきずなが今後ますます太く、力強いものとなりますよう、引き続きご支援のほどお願い申し上げます。

平成４年３月

国際協力事業団
研修事業部
部長　諏訪　龍

目　　次

序

1．韓国青年招へい事業

(1)事業の概要…… 7

(2)実施協力団体と実施県…… 9

2．招へい青年の印象…… 11

3．合宿セミナー参加日本人青年の声…… 20

4．ホストファミリーの思い出…… 29

〈実績資料〉

1．韓国窓口機関（現地プログラム実施機関）…… 36

2．現地プログラム実施日程…… 36

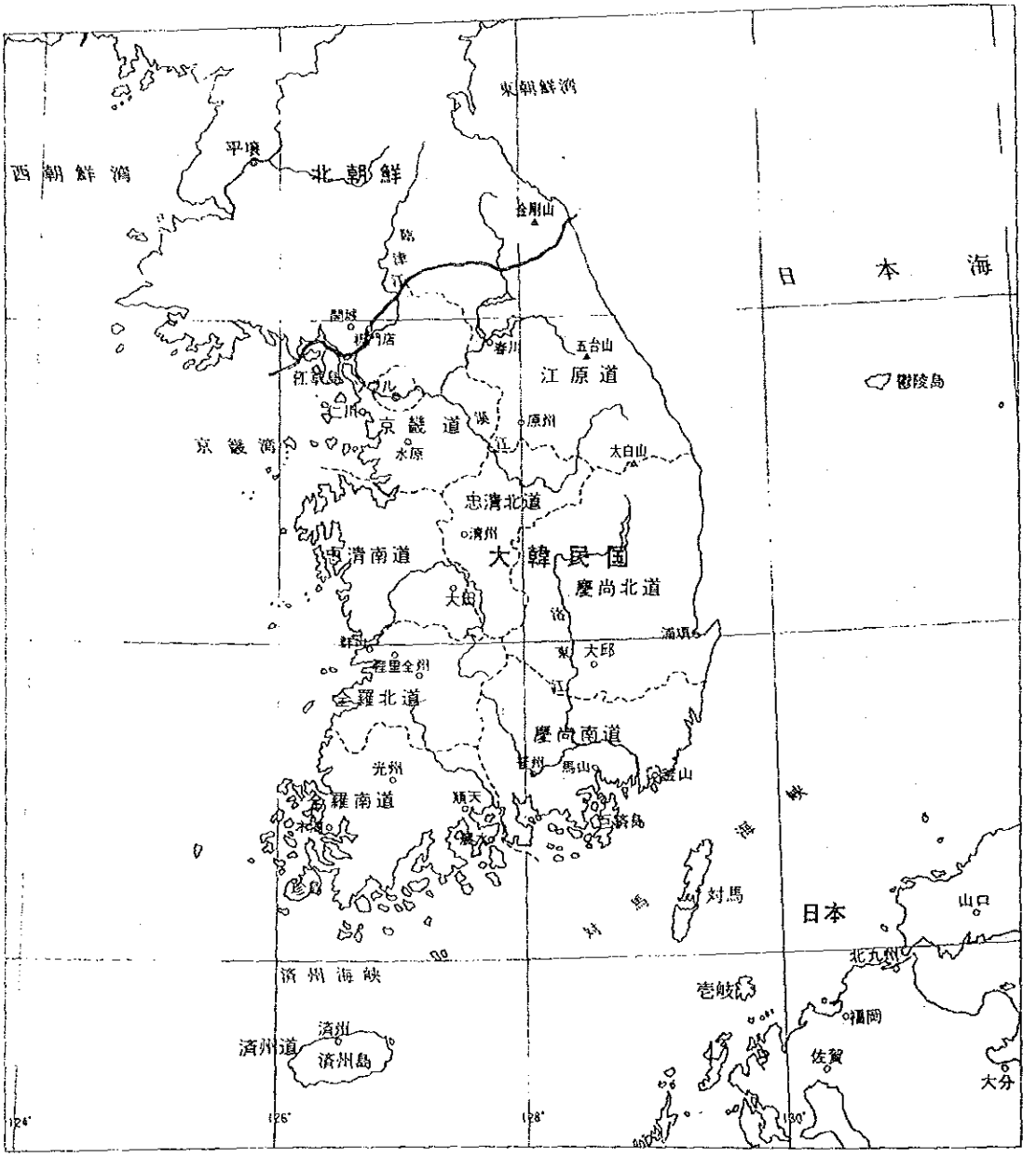
3．実施日程…… 37

4．韓国青年招へい実績一覧…… 41

5．平成３年度青年招へい事業受け入れ実績一覧…… 42

6．青年招へい事業実施協力団体等一覧…… 43

〈韓国青年名簿〉 …… 89


東朝鮮湾
西朝鮮湾
平壌
北朝鮮
金剛山
臨津江
開城
板門店
春川
五台山
江原道
江華島
ソウル
京畿道
原州
京畿湾
水原
太白山
忠清北道
清州
忠清南道
大韓民国
慶尚北道
大田
洛東江
浦項
大邱
全羅北道
慶尚南道
光州
馬山
釜山
全羅南道
順天
巨済島
海峡
対馬
対馬海峡
日本
山口
北九州
壱岐島
福岡
佐賀
大分
済州海峡
済州道
済州
済州島
鬱陵島
124°
126°
128°
130°

1. 韓国青年招へい事業

(1) 事業の概要

1) 事業の目的

21世紀に向けて、日本と韓国との友好と協力の関係をより強固かつ実りあるものとするため、未来の国造りを担う韓国の青年をわが国に招へいし、日本の同世代の青年との交流を通じ、相互理解を深め、真の友情と信頼を培うことを目的とする。

2) 実施方法

①招へい人数

平成3年度は、100名の青年を同時期に受け入れる。

②招へい対象者

下記分野における指導的立場にある18～35歳前後の青年。

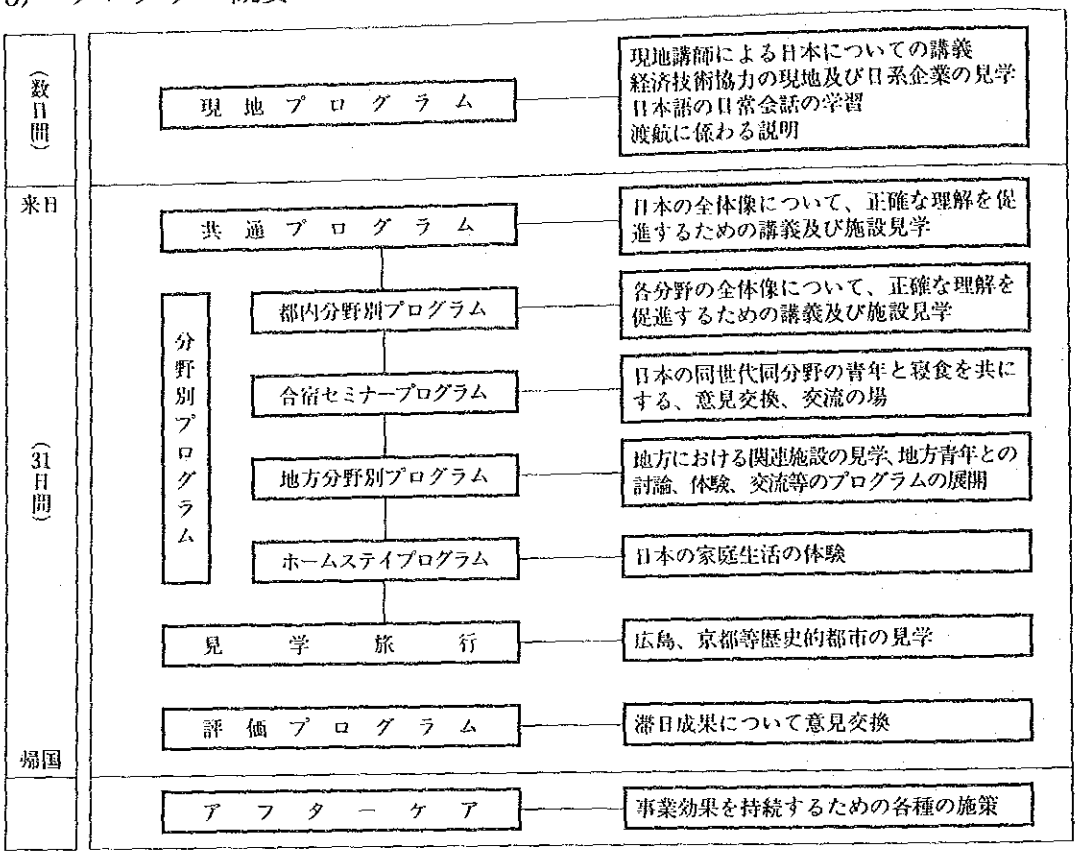
(各グループのリーダー、サブリーダーは除く)

招へい対象者	人数
(i) 青年指導者	20名
(ii) 教員	20名
(iii) 勤労青年	30名
(iv) 学生	30名

③招へい期間および時期

招へい期間は7月9日～8月8日までの1カ月とし、出発前、数日間の現地プログラムを実施する。

3) プログラム概要



4) 受け入れ体制

本計画を円滑に実施するため次の2委員会を設置する。

①関係省庁調整連絡会議

(i) 任務：本計画の実施及び運営に係わる基本的事項につき協議。

(ii) 構成メンバー：

外務省経済協力局技術協力課
　　アジア局地域政策課
　　大臣官房文化交流部文化第二課
総務庁青少年対策本部
文部省学術国際局国際企画課教育文化交流室
農林水産省経済局国際部国際協力課
労働省大臣官房国際労働課
自治省大臣官房企画室
国際協力事業団

②実行連絡調整委員会

(i) 任務：実行計画の運営、分野別プログラムの実施及び各プログラム間の連携につき協議し、プログラム実施上の問題につき、国際協力事業団に対し助言。

(ii) 構成メンバー：関係省庁より推薦された民間の実施協力団体。

(社)青少年育成国民会議
(財)世界青少年交流協会
(社)日本国際生活体験協会
(社)全国農村青少年教育振興会
(社)日本経済青年協議会
(社)勤労厚生協会
(財)ユースワーカー能力開発協会
(社)国際交流サービス協会
(社)青年海外協力協会
日本青年団協議会
(社)日本ユネスコ協会連盟
(財)日本ユース・ホステル協会
(財)日本友愛青年協会
(財)国際協力サービス・センター

5) 実施運営分担

	プログラム実施・監理	プログラム運営		食事・宿舎の手配
		連絡・調整	運営	
現地プログラム	国際協力事業団	国際協力事業団（国際協力サービス・センター）	各国実施機関（在韓国日本国大使館）	各国実施機関（在韓国日本国大使館）
共通プログラム（都内）		国際協力事業団（国際協力サービス・センター）	国際協力サービス・センター	国際協力サービス・センター
都内分野別プログラム（都内）		実施協力団体	実施協力団体	実施協力団体
合宿セミナープログラム				
地方分野別プログラム（ホームステイを含む）		実施協力団体 地方協力団体（国際協力事業団国内支部）	地方協力団体（国際協力事業団国内支部）	地方協力団体
見学旅行（広島、京都等）		実施協力団体	実施協力団体	実施協力団体
評価プログラム（都内）		国際協力事業団	国際協力サービス・センター	国際協力サービス・センター

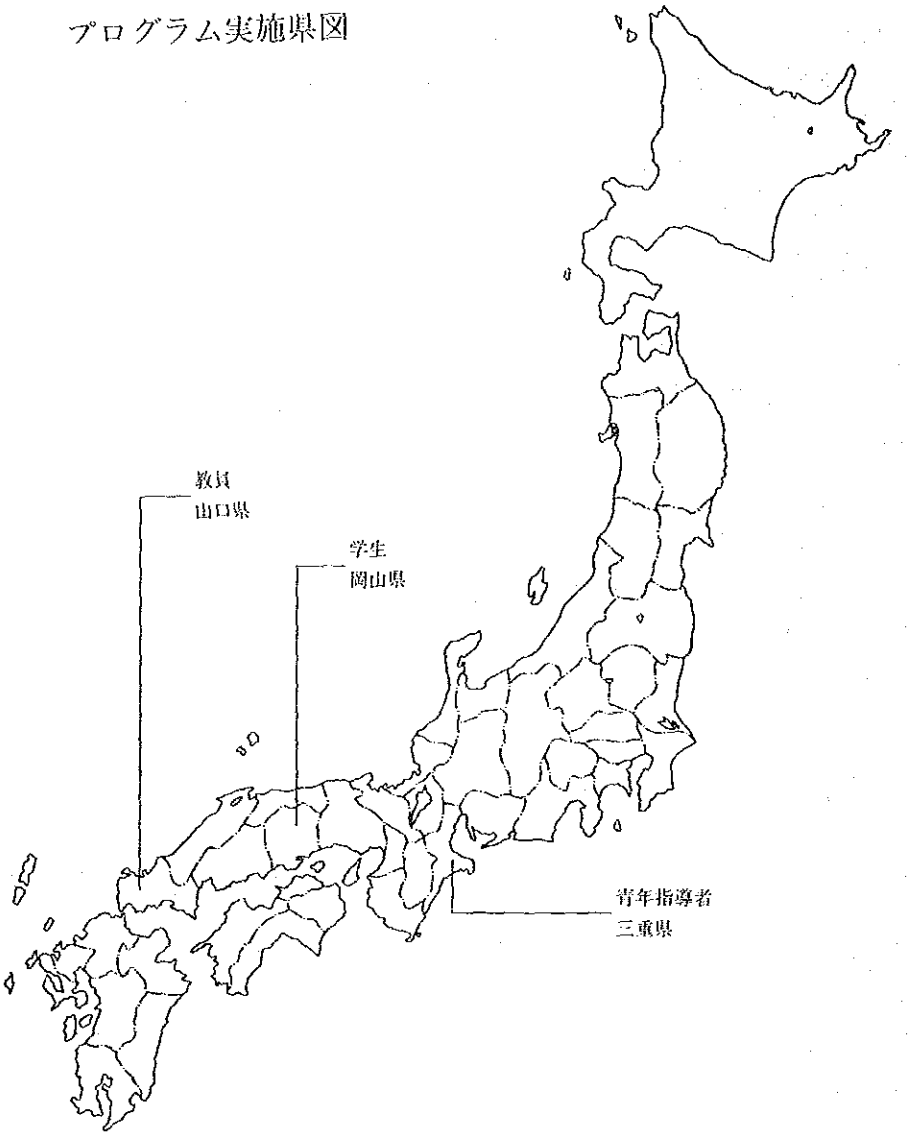
(注) 地方分野別プログラムは、地方公共団体の指導と協力を得て実施する。

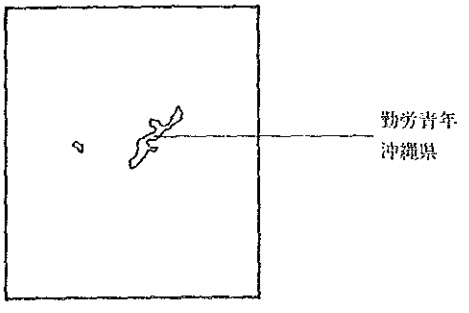
(2) 実施協力団体と実施県

分野名	人数	実施協力団体	実施県
青年指導者	19	青少年育成国民会議	三重
教員	20	日本ユネスコ協会連盟	山口
勤労青年	28	勤労厚生協会	沖縄
学生	31	世界青少年交流協会	岡山

※共通プログラムについては、国際協力サービス・センターが全グループに対して実施した。

プログラム実施県図





2. 招へい青年の印象

日本訪問の１カ月

朴　美玉
青年指導者グループ

「日本」。どこから話せばよいのだろう。

初めて成田空港に降り立った私たち一行のとまどいは、見慣れぬ異国の地でのテレフォンカードの購入から始まった。おどおどと自動販売機に集まって千円札を入れ、テレフォンカードを買っていた姿が今も目に鮮やかに思い出される。

どうやってこの１カ月を送ろうかという不安と好奇心は、忙しい日程に追われて退屈する間もなく、10日余りを過ごしてしまった。まったく違った考え方を持つ、それぞれに秀れた人々の集団は、簡単なことばかりではなかったが、また違った人間関係の一面を勉強する機会ともなった。

地方の隈々までいかにも経済大国らしく整然とした都市のようすは、比較的田舎に属する三重県においても、都市の規模・諸施設・自治管理等の面からうかがうことができた。

大台町での合宿セミナー期間は、私たち団員のすべてに強い印象を与え、離れがたさを覚えさせた極めて大切な時間であった。大台町で結ばれた友情は、三重県での地方プログラムを親密な雰囲気と温かい気持ちで続けていくうえで、大きな助けとなった。その三重県を離れる日の朝、私たちの列車を追いかけて全速力で走り見送ってくれた人々の姿がいまだにまぶたに焼きついている。この間の彼らの苦労に対しての感謝を込めて、この紙面を通し、心からありがとうの言葉を贈りたい。

無言の痛みを持つ都市「広島」。私たちの祖先の堂々とした歴史的足跡を残す「奈良」。そして、日本の歴史的都市「京都」などの観光地は、私たち団員にとって不便であった日本特有の弁当や食事すらも、非常に印象的なものに変えてしまった。

時は流れて、すでに帰国の準備をしながら振り返ってみる日本訪問の１カ月は、団員すべての持つ記憶と、おのおのの個人的な感慨とが混じりあい、得がたい特別な思い出となったと確信する。

最後に、このプログラムの進行に力を尽くして下さったすべての方々の配慮に対し、心からの感謝を捧げ、皆様方の今後の発展を祈りたい。

感　想　文

具　炳鎬
青年指導者グループ

日本に対する好奇心と初めての外国に対する恐れが入りまじった気持ちで、日本における日程が始まった。

JICA 側の温かい配慮とコーディネーターの一糸乱れぬ行動は、不慣れな外国生活に適応しようとする私に大きな助けとなった。

しかし、外国というには、あまりにも見慣れた街・人々・建物・風景のため、本国にいるような錯覚に陥ることもあり、思わず笑みがこぼれたのであった。

漠然と知っていた日本と日本人、そして日本文化。それらをより深く知る機会となったが、それを真の理解と呼べるかどうかは疑わしい。ただ、

日本で受けた講義、施設見学、機関訪問、また、合宿セミナーでできた日本の友人たち、ホームステイの家庭を通して、日本の親切さと几帳面さに深く感銘したことは確かである。

加えて、地方プログラムの三重県青少年育成県民会議の綿密な計画と推進力は驚きに値する。初めて出会う韓国人に対して、中央プログラムに劣らず、熱意と誠意を尽くす姿に頭の下がる思いであった。

地方プログラムで最もおもしろかったのは、やはりホームステイである。初めは言葉が通じないことを非常に心配していたが、ほんの少し習った日本語、英語に漢字、そして万国共通のゼスチャー、それらを総動員することによって、不十分ではあるが、お互いが理解し合えて安堵したのだった。

日本の家庭生活に慣れていない韓国人のために不便のないよう多くの配慮をし、細い説明をしてやろうと苦労しているホストファミリーの姿にわれ知らず、すっかり心を開いていたのだった。

ただひとつ、日本での滞在中、残念であり悲しくもあったことは、地方のプログラムを終えて訪れた広島で、韓国人原爆犠牲者慰霊碑が平和公園内に建立されずに、沿道の片隅に置かれたままになっているということである。

もちろん規則や方針によるものとはいえ、韓国人である私がこれを見るとき、その心境は複雑極まりないものである。ここにきて、今まで感じてきた日本に対する好感が半減したようでもあった。

1カ月という期間は長すぎたようでもあったが、振り返ってみれば非常に貴重な時間であった。ともあれ、韓国に帰っても日本での生活を思い出し、良い面は一生懸命見習い、悪い面は他山の石としてやっていこうと誓ったのだった。

この間、私たち青年指導者グループを物心両面から面倒を見て下さったJICA職員とコーディネーターの方々、青少年育成国民会議の皆様、また、ホストファミリーの皆様、そのほかすべての方々に心から感謝し、良い思い出だけを心に留めようと思っている。

そして、日韓青少年交流がより活発に推進され、両国がますます理解を深めることを切に願うものである。

日本体験記

辛　永淑
教員グループ

私は、この交流事業に参加して、日本についてよりいっそう知ることができたのがとてもうれしかった。しかし、一方では、言葉があまり通じないことに対する恐れもあった。

しかし、日本に到着してからいろいろ体験し、日本人と交流しながら、言葉よりも心がもっと重要だということが感じられてきた。体験的日本語学習では、お互いに言葉が通じなかったが、本当に日本の文化に接することができるようにお手伝い下さり、いろいろなところを案内して下さった田中さん母娘のおかげで楽しい時間がおくれ、長野県での合宿セミナーでは、同じ教員同士、人権問題について真剣に話し合えた点が非常に印象的だった。

また、山口県でのユネスコ関係者たちの真心にみちた歓迎と好意は、本当に胸一杯に迫ってきた。誠実に素直な心で私たちを迎えて下さったおかげだ。とくに光市では、私が会った日本人は本当に親切で、明るく礼儀正しく、時間と約束をよく守る方々だった。そして、私たちが最も心配しながらも期待していたホームステイは、日本人を知るよい機会であり、張りのある素晴らしい時間だった。私は光高等学校の教師の山本先生のお宅にお世話になったが、同じ教師であるため共感でき、

親しく教育の現実、未来などについて夜が更けるのも忘れて熱心に討論した。また、家族のために献身的によく働き、つつましい生活をしている奥さんと家庭教育についていろいろな話をしたことも、楽しく有意義だった。

そして広島の平和公園では、心から平和に対する念願を胸の奥深く刻みつけ、日本人はもちろん、全世界の人々が、平和を祈願する心を永遠に大事にしてほしいと思った。

また、日本の伝統文化・歴史の都市である京都、奈良、山口などいろいろなところで、日本の文化の中に存在する韓国の文化が発見できた。日本と韓国の長い歴史的な関係を、無言で語ってくれていたのだった。

日本という国は地球上の遠いひとつの国ではなく、私たちが望む望まないにかかわらず、緊密な歴史的関係を結んできたものであり、また結ばずにはいられない近い国であることを、心から実感した。それゆえ、今回のような交流の機会がいかに貴重であるかという点も悟った。これからも、今度芽吹いた交流の心がずっと続き発展することを祈り、このような機会が、より多くの教師に与えられることを願うものである。

これまで私たちに温かく接して下さり、日本を知ることができるようご尽力下さったJICA関係者、ユネスコ関係者の皆様、ホームステイでお世話になった家族の皆様、コーディネーターの皆様、そのほかすべての方々に心より感謝の気持ちを捧げます。

明日はわれわれすべてのもの

梁　大源
教員グループ

〝近くて遠い国〟。この言葉はわれわれが日本を語るときによく使う言葉だが、この言葉の中には、相当なニュアンスが内包されているようだ。

私もこのたびの交流事業で日本に来る前までは、この言葉そのままの偏狭な思考だけをもっていた。

交流を通じ、日本に対して多角的に見聞し、肌で感じるいろいろな体験を通じ、その言葉の意味を冷徹に判断してみようという自分なりの目的をもって、日本での生活をすることになった。

本当に東京はソウルから飛行機で2時間しかかからない非常に近いところだった。

空港に到着して入国手続きを受けるときに、言葉の違いによる違和感を感じたが、われわれとの歴史的利害関係を離れて、現在の日本人への親近感は、時が経つにつれ、よりいっそう肌で感じられるようになった。

とくに、ホームステイを通じ、最初はあまりにも見慣れない風習のため――たとえば、主婦が居間でお客に対し、ひざをそろえて正座でおじぎをするとか、来訪したお客にまず入浴をすすめるとか、食事のときに、料理が各自個人別にそれぞれ盛りつけられて並べてあるとか――面くらったりもしたが、それもわずかの間だった。すぐに数年前に別れた兄弟に再会したように心配も消え、家族すべての愛情あふれる優しさに、自分の家で気楽にやすんでいるような錯覚に陥るほど親近感をおぼえ、閉ざされた心で訪問した私としては、心をパッと開けざるをえない、非常に意味深く、かたい友情を誓いあうきっかけになったようだ。

中国の昔の言葉に「みかんが淮水（中国の地名）を越えると、からたちの実になる」というのがある。すなわち、同じものでも受け入れる環境、条件によって、良くもなるし悪くもなる、という意味である。しかし、この言葉は、日本人においては、反対の意味づけをしたい。彼らはむしろ、からたちの実をつくるのではなく、大きくて味のよいみかんを作ることを知り、これからもそれを作ろうとしているようだ。

博物館で見られる遺物だけでなく、寺の屋根の線の流れなど、わが国から渡来したと見うけられるものでも、最終的には日本独自のものにしてしまう姿や、城の防御のための堀、城に通ずる迷路の道筋など、日本人の創意性がみられ、歴史の流れの中で、自分たちだけが持つ新しいものを創造しようという意志があるのがわかった。

合宿セミナーでは、われわれが提起したいろいろな問題に対して、日本の教師が各自、自分自身の責任のように問題解決のために真剣であり、誠意を尽くして資料を探し分析し、よい案が出るまで悩み研究する姿には非常に好感を覚え、合理的な彼らの思考に感嘆せずにはいられなかった。国際間の関心事――青少年の意識問題、環境汚染問題、人権問題――にもわれわれと同様の理解をもっているのがわかり、夜通し討論し、われわれの友情を確かめ合い、来たる21世紀の主役という使命感をともに認識することとなった。

われわれは1カ月余りの間、日本について多くの体験をした。心を落ち着かせ、冷静に未来を頭に描きつつ、われわれのものは堅持しながらも、必要なら互いに包容力をもって認め合い、受け取り、新しいものへと昇華発展させることのできる勇気と努力が必要なのではないかと思う。

共存共栄する「近くて近い国」になることを願う心でいっぱいだ。

日本での1カ月を終えるにあたって

洪　南杓
勤労青年グループ

まず、「21世紀のための友情計画」に直接的間接的に携わって下さった日本側関係者すべての方々に感謝いたします。

1カ月の日本滞在で直接日本を体験し、印象深かったことを記述したいと思う。

第一は、日本人の徹底性だ。体験的日本語学習というプログラムで、私たちチームは日本の学生とともに東京都内を回った。このプログラムは5時に終わることになっていたが、明治神宮を一緒に出たときは4時ごろだった。中途半端な時間であったので、同行した日本人学生に「もう帰ってもいいですよ」と遠慮した。それでも日本人学生たちは「自分たちに任された時間が5時までなので、そういうわけにはいかない」と言いながら、私たちが泊まっている池袋にあるサンシャインビルに案内してくれ、時間一杯まで完璧といえるほどに自分たちのやるべきことを徹底してやってくれた。

また私たち勤労青年グループが、京都での日程を終え、東京に向かう新幹線に乗るためにプラットホームで待っていたときのことである。それまで私たちが乗っていたバスのガイドさんが額に汗をかきながらバタバタと走ってきて、忘れものだと私たち一行のひとりが置き忘れてきた名札をさし出したとき、私は日本人の徹底した職業意識を痛感した。そしてこのような日本人のすべての面に対する徹底性が、世界的経済大国をつくった原動力ではないかと思った。

第二に、日本人は簡素だということだ。日本が世界的経済大国だというイメージがわかないほど、日本人は簡素な生活が身についていた。食事、服装、そして都内で女性たちが自転車をよく利用しているなど、多方面で日本人の質素、簡素なところを発見することができた。国民各個人の生活は簡素な反面、社会間接資本など社会全体のための投資が多いが国民から大きな不満がでないのを見て、日本人は社会全体の利益を優先する民族ではないかという考えを抱いた。

三番目に、親切であること。私があったほとんどすべての日本人が親切であることを実体験した。道を尋ねたとき、買い物をしたとき、また、自分の店にない品物がどこの店にあるか丁寧に教えて

くれたとき等々、いたるところで人々の親切を感じることができた。

また、沖縄で大変厚い人情に触れ、感激すると同時に、このような民族がどうして世界大戦を引き起こしたのだろうという深い疑問にとらわれた。平和を愛する日本が、今後世界に対してすべきことは大変多いと思われる。

以上簡単に日本人から受けた印象を記述したが、そのほか書ききれない良い印象をたくさん受けた。今回のプログラムは日本をもう一度考えるよい機会であり、私個人にとっても大変価値のあるものであった。これからも民間レベルの交流を盛んにすることが、日本を正しく理解する近道だと思う。このような正しい理解を基礎に日韓関係を再確立し、日韓間の協力関係がより発展することを期待したい。

感想文

金　善泰
勤労青年グループ

日本のことをよりよく知る目的で今回「21世紀のための友情計画」に参加した私は、訪日前からとっても不安だった。なにより、私は海外が初めてのうえに日本語は全然できないので、それだけでも不安で一杯だった。事前教育を通していくつかの言葉は覚えたが、実際、日本に着いたらすべてが新しく、言葉も通じなかった。こうして新しい私の人生が始まったような気分を感じつつ１カ月間の交流の旅が始まったのである。

とくに体験的日本語学習の時間には一言もしゃべれぬまま一日中同行したことや、買い物の際に値段を聞くこともできなくて身ぶり手ぶりで行動したことは永遠に忘れられない思い出である。

沖縄で一番心配していたホームステイで感じたことを書きたい。私のホームステイ先は正木元さんというふつうのサラリーマンの家庭だった。奥さんと２歳の娘、そしてアメリカ人の友達ジフの４人が一緒に住んでいた。ホテルから家までは１時間ぐらいかかる距離で、特別ぜいたくをしている家庭ではなかった。そのような家族の一員となって多少ぎこちない雰囲気ではあったが、私のホームステイは始まった。

ホテルを出る前から台風も来ていて多少不安に思っている私を、正木さんはできるだけ打ち解けさせようと気を遣っていた。そういった感じでホームステイの一日を過ごした。翌日の朝も雨が続いていたのでカヌーをやることになっていたができなくなり、そのかわり午前中はドライブをして、午後は正木さんの友達の家を訪問することになった。その友達の家に着いたとき、ひとりでギターを弾いていた彼は私を歓迎してくれた。正木さんとその友達がしばらく言葉を交わしたあと、その友達は私のほうにやってきて、突然韓国語であいさつをした。私はびっくりしてどう応えていいかわからないまま立っていたら、彼は簡単に自己紹介してくれた。彼は３歳のとき小児麻痺にかかった足を治すために母親と一緒に日本に来て以来、日本に住んでいるという。これまでいろいろ苦労があって、今は米軍基地で音楽活動をしているが、今年39歳の彼はいまだに足が不自由で視力も悪く、一見、かわいそうな人だった。

彼の家でいろいろ話をしてから彼を誘ってホームステイ先の家に戻ってきたら、いろいろごちそうを用意してくれて通訳入りのパーティーが行われた。そしてそれまでなんとなくぎこちなく感じられた雰囲気がなくなり、私たちはまるで古い友達のようになった。朝３時ごろになって正木さんはこれから皆本当の友達になろうと言い出し、私は正木さんを元ちゃんと呼ぶことにし、また元ちゃんは私をソンテと呼ぶことにした。しかし、元ちゃんは何回も申し訳ないと言っていた。理由は何もない家に呼んだからだと言った。

翌日の朝9時に起きて簡単に食事をしてから、元ちゃんの奥さんがお産のために入院している病院に向かった。病院には10時ごろ着き、娘さんが生まれたのは午後1時ごろだった。彼は男の子を欲しがっていたらしく、最初は少し寂しそうな顔をしていたが、笑顔で奥さんを優しくねぎらっていた。沖縄でも男の子を望むらしい。午後2時ごろ、病院を出て彼のお父さんが勤めている気象庁に向かった。お父さんは喜んで迎えてくれた。そしてお父さんの案内でレーダーやコンピューター施設などを見学し、そのあとホテルに戻った。

こうして2泊3日のホームステイは終わったが、親切にしてくれた元ちゃんの家族に感謝したい。そして元のような友達をつくってくれたJICAにも感謝したい。元の家族には幸せを、またJICAには今後の発展を願う。

生まれ変わらせてくれた1カ月

梁　榮伸
勤労青年グループ

ソウルを出発する直前まで、私は1カ月間日本で過ごすのは大変だろうとばかり思っていた。帰国を目前に控えた今、98名の団員の中には長くて退屈だったと思っている人もいるかもしれないが、私たちのグループ、少なくとも私にとっては短いと感じられるほど楽しい1カ月であった。日本で過ごす日も残り少なくなった今の時点で心残りなことがいくつもある。ほかの人よりもひとつでも多く見て、もっと学ぼうと努力し、コーディネーターの説明を一言も漏らさぬようメモをとったが、まだまだ不足だという思いは拭えない。

1週間の「日本の歴史」「産業と経済」「社会と文化」等の講義と体験的日本語学習。日本青年との合宿セミナー、ホームステイ等の交流。神社仏閣の見学および公共機関の訪問等々、多様なプログラムがあった。そのなかで体験的日本語学習においては、最後にホテルまで一緒に来てもらい、韓国服を着せてあげたり、焼酎、キムチ、ラーメン等でささやかな韓国風宴会を開いて歌を歌い、気持ちをひとつにすることができた。

また、相模湖トリムセンターでの合宿セミナーも大変印象深い。スポーツ交流で各グループ対抗でバレーボールをしたときは、どのグループも一糸乱れぬチームワークで素晴らしい試合ぶりであった。心と心が通い合い、私たちすべてがひとつだと感じた。

そのほかたくさんのプログラムのなかでホームステイはやはり一番よい思い出となるであろう。お父さん、お母さん、すま子さん（ホームステイをするにあたり、日本での親となっていただいた）が迎えてくれた。胸をときめかせながら玄関に入るやいなや、韓国語と英語で「ヤン　ヨンシンさん、よくいらっしゃいました。Miss YANG YOUNG SHIN Welcome !!」という大きな文字が私の目に飛び込んできた。そしてすぐに「韓国のご両親に、無事ホームステイ家庭に着いたと電話を入れたら」と気遣ってくれた。

私の部屋は2階だったが、部屋に入るとき、きれいなバラが5本、ベッドの脇に飾られていて、「Miss YANG YOUNG SHIN , From SUMAKO」と書かれた文字がまた私を喜ばせた。

お母さんに「夕御飯の準備をするのに少し手伝ってちょうだい」と頼まれた。食事は乾杯をして、キムチも準備されており、大変おいしくいただいた。

次の日、お母さんと一緒に領事館を訪問し、領事と副領事にお会いした。一から十まできめ細かい気配りをして下さって、感謝すると同時に、かえって申し訳ない気持ちになった。

言葉が通じないという問題はあったが、英語、日本語、韓国語、そして身ぶり手ぶり、それでも

だめなときは絵を描いて意思の疎通を図った。心を開けばすべて通じ合えるのだった。

沖縄は済州道とよく似ており、外国というより自分の故郷に帰ったような心地がした。エメラルド色の海、あの美しい自然の景色をもう一度見たい。

ホームステイ等で多くの日本人に接して感じたことは、親切、緻密な計画性、自分がいくら大変でも相手が望むことをしてくれる犠牲的精神があることで、私がおおいに学ぶべき点であった。

韓国と日本の違いを私なりに探してみた。韓国の若い世代は過去と現在、未来を考える反面、日本の若者は過去は考えずに、現在と未来だけを考えるという点である。そして豊かさに比べ簡素な生活をし、自分自身をあからさまに出さずに己を隠すということだ。また、外国文化を受け入れるが、新しさを加味しながら伝統を守り、なにか困難に出合ったとき、新しい突破口を探し出すという点である。

このようなことを感ずる反面、私は他の進んだ文化を受け入れながらも、私たちの伝統文化の未開拓分野を開発継承、発展させ、伝統を受け継いでいかなければならないと思った。

最後に、「21世紀のための友情計画」に参加した98名全員が無事大過なく帰国の途に就けることを、日本の方々に感謝したい。このプログラムを主催して下さったJICAおよび、JICA沖縄支部、各協力団体、そしてコーディネーター、ホームステイ等に協力して下さったすべての方々に心より感謝し、1カ月の日本での生活に関するこの感想文は、大変素晴らしい思いをした私個人の考えを書き連ねたものであることを明記する。

JICA乾杯！　大韓民国健児ガンバレ！

感想文

安　和珍

学生グループ

今回のプログラムに参加することが決まってから、まっ先に私の頭に浮かんできた日本に対するイメージは、普偏的な韓国人のそれとなんら変わりはなかった。近くて遠い国、過去にわが国を侵略した国、多分にこのような先入観をもって来日したのである。

しかし、日本での日程が経つにつれ、また日本の大学生たちとの交流を通して、日本を見る新しい視野をもつことができた。

今回のプログラムの中で最も印象深かったことは、合宿セミナーに参加した学生たちが、ボランティアでありながらも3泊4日の日程を完璧にこなすため、毎日寝る間も惜しんで計画を立て、実行してきたということを知ったことである。今日の日本があるのはこういう人たちがいるからだと思った。合宿セミナーを通して日本の若者の考え方を知ることができたのは何よりの貴重な経験であった。

地方プログラムでは、岡山県倉敷市の「天領まつり」に参加でき、とてもうれしかった。日本は地方ごとに独持の祭りがあり、それを通じて共同体意識を育んでいることを知ることができた。また、倉敷でのホームステイを通して日本家庭の生活習慣を見ることができ、韓国との類似点を発見したりもした。日本はけっして遠い国ではなく、近いお隣の国であることを感じた。

最後に、今回のプログラムに協力し参加して下さったJICAとコーディネーターの皆さん、そして倉敷友の会の皆さん、日本の大学生の皆さんの変わりのない誠実な態度、最善を尽くす姿勢に21世紀に向かう日本の未来を読み取ることができた。これから日本とよい同伴者関係を育んでいくため

に、正しい歴史認識をもつ努力を続けていきたいと思う。

今回のプログラムに参加できたことは、私の人生において貴重な体験となることであり、日本の学生との友情交流は永遠に忘れられないよい思い出になることと思う。

最後に、成田にまで見送りに来てくれる日本の大学生の皆さんに感謝するとともに、私にこのような貴重な体験を与えてくれた皆様にも感謝の言葉を申し上げたい。

日本で多くを学んでいきます。

さようなら。

感想文

白　媛善

学生グループ

A.M.5時を少し過ぎた。数時間後には1カ月の日程がすべて終わってしまう。私たちと一緒に合宿セミナーに参加してくれた日本の大学生たちと、最後の夜を惜しみながら過ごしている。

最初のころはなかなかなじめなかった彼らだったが、今は遠い昔からの友達のような親しみを感じる。体験的日本語学習、大学訪問を通して知り合った日本の学生たち、合宿セミナーでは彼らの考えを聞き、韓国の若者の考えを伝えようと努力した。私は準備不足のため誠実な態度でセミナーに臨むことができなかったが、日本の学生たちの細心の配慮と準備はありがたく思えた。若者同士であったためか言葉はうまく通じなくても、身ぶり手ぶりでなんとか相手の意思と自分の意思が通じ合えたときは、ほんとうにうれしかった。

合宿セミナーの最後のパーティーの日、互いに準備した演劇や踊り、歌などを出し合い、キャンドル行進をしたことは忘れがたい思い出である。

地方プログラムでは、一生懸命に尽くしてくれた倉敷友の会の皆さん、ホームステイのホストファミリー、アキオカショウタロウ氏家族、駅に見送りに来て泣いていたサナエさん、皆さん心からお礼を申し上げたい。天領まつりに参加した思い出は永遠に忘れない。

感想文

鄭　英錫

学生グループ

世の中には何ものとも取り替えられない自分自身だけの貴重な体験がある。これらはたびたび偶然というかたちで現れる。7月9日、東京に向かう飛行機の中から、私にもこのような貴重な体験が始まっていた。

JICA側のきめ細やかな計画と日程をこなすうちに、数多くの思い出を残すことができた。日本に関する講義、日本語学習、日本人学生との合宿セミナー、地方見学など振り返ってみて大切に思えないものはひとつもないが、何よりも印象深かった思い出は、山中湖での合宿セミナーとホームステイであった。互いに違う言語と違う価値観をもち、また忘れることのできない歴史的体験をもつ両国の青年ではあったが、互いを理解し、話し合う共通点を見い出そうと努力した。知りたいこと話したいことは山ほどあったが、越えられない言葉の壁と文化の違いは若者の気持ちをいらだたせていた。

しかし、それにもかかわらず両国青年が熱い友情を交わすことができたのは、互いに純粋な心と熱い情熱を感じることができたからだと思う。私のパートナーであるリカちゃん、そして数多くの友人たち彼らは、これまでの冷たい日本人、内側と外側の違う日本人といった私の先入観を少しずつなくしてくれた。3泊4日という出会いがあま

りにも短すぎて名残惜しい気持ちは残ったが……。

そして、私は日本を理解するもうひとつの体験をすることができた。お母さんお父さん、シズコさんクミコさんのふたりのかわいい娘さんがいたホームステイでの体験である。とくにふたりの娘さんと交わした数多くの対話は忘れられない。彼女らの韓国に対する知識は多くなかったが、私の話に珍しそうにうなずいてくれた。ほかにも韓国を知らない人があまりにも多いので少し寂しい気はしたが、私自身も日本についてあまりにも無知であったことを恥じずにはいられなかった。

今回のJICAのプログラムは、私の無知を自覚させてくれるとてもよい機会であった。1カ月間行動を共にした仲間の皆さんと、よい経験と数多くの思い出をつくることができた。

最後に、JICAと母のように姉のように面倒を見てくれたコーディネーターの方々に、心からお礼の言葉を申し上げたい。

3. 合宿セミナー参加日本青年の声

合宿セミナーに参加して

岡田　譲治
教　員

今まで朝鮮半島と日本との問題について本や映画、そしてテレビなどを通じて意識的に感心を持ち、息子を連れて2度韓国に家族旅行をしたりと、自分なりに知識不足を埋めてきたつもりではあったが、知らないことを知る機会というものはいくらあってもうれしいものだ。今回の合宿セミナーはまさにそれであった。7月25日から27日までの3日間ではあったが、とても貴重な時間を持つことができた。

私は往路、池袋のホテルからバスに同乗させていただいたが、「アンニョンハシムニカ」と言ったとたん、ここからいっきに韓国語づけになったといっていい。この後遺症は合宿終了後もしばらく続いたが、とても快いものであった。昨年、中国の青年グループとの合宿セミナーに初めて参加させていただいたが、お国柄ということもあろうが、今回は韓国側、日本側ともに変に遠慮や気の遣いすぎということがなく、等身大の交流ができたのではないかと自分では考えている。

また、日本人グループも、地元の長野をはじめ首都圏だけではなく、大阪、山口など各地方にわたっており、お互いの情報交換の場にもなったこともうれしいことのひとつだ。

「隣人としての外国人を考える」という題で在日韓国・朝鮮人問題について講演された田中宏氏は、その後も私たちの分科会に加わり、時間の許す限り多くの質問に丁寧に答えられ、さらにさまざまな話もして下さった。お互いの国の間が、みるみるうちに縮まったような気がした。翌日の報告を聞いてみて、各分科会とも実りある討論になったようだ。

双方の橋渡しをしていただいた通訳の方をはじめ、企画・運営をされたユネスコ職員の方々に感謝するとともに、この合宿を通じて知り合いになった韓国青年と今後とも交流を深めていきたいと今思っている。「カムサハムニダ」。

合宿セミナーに参加して

佐藤　英二郎
教　員

承知のうえとはいえ、学期末の日からの合宿は、やはりかなり厳しいものでした。けれど、今思い起こしても、大変貴重な体験をさせていただいたと考えます。分科会等では、日韓両国の先生方から、多くの示唆を受けました。夜の交歓など楽しい時間も過ごせました。通訳の方のお世話のもとででしたが、部屋の畳の上での身ぶり手ぶりを交えての交流は、印象深い思い出です。担当の方々の努力には、本当に頭が下がりますが、われわれも少しは、日本理解と交流のために役立ったのではないかと思います。

さて、見当違いになるかもしれませんが、いくつか感じたことを記します。まず、日程に余裕がなかったと思います。日本側としても、応募のしやすい日程ではありませんでした。

次にそれに比して、交歓の時間はたっぷり取ったほうがよかったのではないでしょうか。初めはおしきせの形になっても、そのほうがお互いのようすもよくわかり、本当の交流になるように思い

ます。たとえば、自然発生的だった歓迎パーティー後の交歓会などは、とても楽しかったし、また勉強になりました。本やマスコミの報道からでは得がたいものを、大胆に求めてはいかがでしょう。

分科会の進め方と人数について——。話題が表面的なことに終始したように思います。統計や資料などを見ればわかることを尋ねたり、小中学生の意識などという無意味な報告をしたりで、かみ合わなかった。おおいに議論をするためにも、事前に用意できるものは、そうすべきでした。私どもの高校でアンケートをとってもよかったし、日韓両国の関心事のつき合わせを事前にもう少しやってもよかった……。分科会の人数が多すぎたことも突っ込んだ話ができなかった理由のひとつかと思います。

最後に、韓国の方々がどういう印象を持たれたのか、外交辞令でなく、率直なところを知りたいものです。今後の私自身のためにも。

合宿セミナーに参加して

上田　宏
会社員

今回は合宿セミナーに参加させていただき、貴重な体験をどうもありがとうございました。このセミナーに来る前は現代の韓国の若者が、日本に対してどう思っているかとても興味津々でした。いろいろな話をしていると、やはり、第２次世界大戦の後遺症が残っており、韓国の若者も年配の方から「日本はこんなひどいことをしたんだ、とんでもない連中だ」といった日本人観を受けついでいるようでショックでした。第２次世界大戦は私の祖父の時代のことですから、今の若い日本の世代に対しても反日感情があるなんて、あまり信じられませんでした。

しかし、時間が経つにつれ、いろいろな人と話をしてみると、「そういった感情をセミナーに来る前までは持っていたが、今回のセミナーを通して、現代の日本の若者は韓国の若者とほぼ同じ考えを持ち、似たような行動をしていることがわかりました。若者に対しては反日感情が薄れ、第２次世界大戦を歴史の遺物と考え、日本を拒むのではなく、21世紀に向けてのよきパートナーとして考えていきたい」と韓国の方から言われたときには、日本代表の一個人としてとてもうれしく思えました。

確かに、私の祖父は朝鮮半島に行っていたそうです。祖父は酔うたびに「戦争はいけない。戦争は人々を狂わせる。物心ついたときから日本が一番で、侵略することが国の名誉となると教育されると、それが本当だと信じてしまう。私もその例外ではなかった。今となっては取り返しがつかなくて申しわけないことをしてしまった」と言っています。

私は小さいころからこの話を聞いていたので、私がアメリカにいたときも韓国人の友達に、祖父が言っていたことをそのまま伝えておきました。今回も、このような機会を持てて、たくさんの韓国の人たちに祖父の気持ちを伝えることができて、とてもうれしく思います。これからもいろいろな障害が発生し、日韓両国で助け合うことがむずかしくなることもあるかと思いますが、これからは私たち若者の時代なので、昔のことは水に流してもらい、21世紀に向けて友情の輪を広げていけたらいいなと思っています。

韓国の皆さん、来日してくれてどうもありがとうございました。JICA の皆さんもいろいろとどうもありがとうございました。

合宿セミナーに参加して

遠藤　祐子
会社員

今回の研修に参加する話があったとき、正直な

ところ、とても不安でした。というのは、韓国の人たちが抱いている反日感情について、さまざまな話を聞いていたからです。しかし、それもこの合宿セミナーが終わろうとしている今は、結局、私もマスメディアに踊らされていただけではないだろうかと思い、反省しています。

韓国青年たちとの出会いは大変劇的で、合宿中も毎日が驚きと発見の連続でした。私の印象では、韓国の人たちはとても心温かく、優しく、強く、そして情熱的です。ひっこみ思案で感情表現の下手な私のような日本人から見れば、うらやましいかぎり。本当に素晴らしい民族です。外見上はかなりよく似ているのに、生活習慣も道徳観念も異なります。まったく異質なものというわけではなく、どこか相通じるものがあるのです。それがとてもうれしく、お互いにしっかり話し合い、理解しようという努力を続けていけば、必ず手を取りあえる日が来る、という希望を私に与えてくれました。

この3日間という期間は少し短すぎます。やっとお互いのことがわかりかけてきたのに、とても残念です。

このような民間レベルでの交流は、とても意義あるものであり、今後とも続けていってほしいものです。多くの人にこのような経験をしていただきたいし、私もぜひもう一度参加したいです。

最後に、このような素晴らしい企画を立てて下さったJICAの皆様、ならびに通訳の方に厚くお礼申し上げます。

「サランヘ」(愛してます)

遠藤　行泰
学　生

主人公の〝一歩(いっぽ)〟は私の分身だ。韓国と日本の友情が一歩でも踏み出せればと思ってこの名を使った。

一歩はパーティーで美しい韓国の女の子美賢(ミヒョン)と知り合い、心を動かされる。「おまえはすぐにガイジンにほれるんだから……」とあきれる親友の賢一に、「金髪で青い目の子に対して抱いた感情とは違う。俺たち日本人とそっくりなんだ」と一歩は反論する。盆踊りのあとで、美賢は韓国の踊りを披露する。自国の文化に誇りを持ち、ひたむきに踊る美賢に、一歩は心ひかれる。そこには国境などというものは存在しない。一歩は美賢を知ろうとする。

しかし、そこで知ったことは自分の歴史認識のなさであった。一歩は歴史の重要さと、しかし戦争をしたのは自分たちではないという複雑な気持ちを賢一に語る。賢一も悩んでしまう。それからこんなことを言う。「おまえ、日本が好きか？(中略) 俺は日本が好きだという気がする。でも理由はわからない」。

一歩は、自分が美賢を愛していることを賢一に伝える。一歩は尋ねる。「どうしたら韓国人と日本人は本当の友達になれる？」と。賢一は答える。「今、自分たちにできることは、韓国と韓国人を知ろうと努力することだ」と。

空港での別れの場面で美賢は一歩に言う。「私は韓国で生まれ育ったから、韓国は自分の国だから、私は韓国を愛しているの。そしてあなたの国はこの日本だわ」。

最後の一節は私に対するメッセージである。日本を愛するということがどういうことかは、私にはわからない。しかし、日本を愛せぬ者が世界を愛することはできないだろう。正しい歴史を知ることが、母国を愛する者の義務ではないか。正義感をもってして愛があるのではないか。

劇の最後に「サランヘ」の歌を、韓国人と日本人が声を合わせてみんなで歌ったとき、ああ、俺はこの劇をやってよかったと思えた。そして、いつか韓国の学生のひとりが私に言ってくれた言葉の意味がわかったとき、涙が流れて私は歌い続け

ることができなかった。

「遠藤さん、大切なのは韓国の知識じゃなくて、正義感（チョン・イ・カム）なんだよ。遠藤さん、あなたは一番大切なものをしっかりと持っているじゃありませんか」

合宿セミナーに参加して

大橋　繁信
会社員

この３日間、自分にとって非常に有意義な時間が過ごせたと思います。当初この合宿に参加することに少々抵抗を感じていたことは確かです。他の参加者も少なからずそのように感じていたのでしょう。しかし今回参加し、終了を迎えて感じたことは、なんともいえない満足感でした。それは何に対してということではなく、ただ単に心の中にあるすべてのものを包んでしまうような偉大な力が加わったように感じたのです。今まで生きてきて、ふつうに生活しているときには受けない刺激を与えられて、心が敏感に反応したのだと思います。

参加者に誰ひとりとして知人のいないなかで、しかも韓国という異文化の人と交流するという立場に立ってみて、初めて日本人であることを自覚し、また、日本文化というものを理解できたのだと思います。

また、韓国の青年と交流してみて感じたことは、大陸的なおおらかさでした。考え方や習慣は日本のそれとは少なからず違っていましたし、文化の違いもわかりました。ただ、韓国青年の恋愛観や考え方の根底にあるものは、東洋の儒教の思想に大きく支えられていて、日本と比べてもたいした差はないと感じたことは発見のひとつでした。

現在の外交関係をよりいっそう深めるためには、両国のトップが会談するだけでは不十分で、このような民間レベルでの交流が非常に重要な意味をもってくると思います。今後もこのような活動を続けてもらい、少しでも互いの国がわかり合い、信頼し合う関係に近づくようになれば素晴らしいことだと思います。

最後に、貴重な体験をさせて下さった国際協力事業団、勤労厚生協会の皆様に感謝します。

合宿セミナーに参加して

久保田　仁
会社員

今回の合宿セミナーに参加することが決まって、出発当日まで不安が期待よりもとても大きかったです。行きのバスの中でも言葉の違いをカバーできるコミュニケーションもとれず、どうなることかと思いました。しかし不安はそこまでで、グループに分かれてのディスカッションでは、通訳の方を通してコミュニケーションがとれるようになり、夜のスポーツ交流会ではチームがひとつとなって勝とうという目標をもち、これで本当のチームができたと思いました。

韓国の皆さんはとても優しく積極的で、豊かな心、表情をもっていて、３日間一緒に笑い、楽しんだことが、とてもよい思い出となりました。ディスカッションでの真面目な話題のときには、本当に自分の意見をしっかり持っていて主張するといったとてもうらやましい面もあります、

政治・経済・文化から日常生活の話まで、韓国の皆さんの意見を聞くことができたことにより、韓国という国が日本によく似ていて、韓国の皆さんもそれほど他の国に来たという感じは強くなかったようですし、ディスカッションによって韓国がわかってきただけでなく、日本という国を改めて見直すことができたこともとても有意義でした。

日本人として恥ずかしい話ですが、何も知らない無知な日本人は韓国という国を見下すというか、自分を優位に考えています。私もそう思っていな

かったといえばうそになります。知らないならともかく、勝手な想像でそう考えるのはとても失礼なことだと思いました。そして少しでも多くの人に韓国という国を理解してもらい、誤解を解けるように少しでも力を貸したいと思います。私自身も周りの日本人の思い込みを直してあげられたら……と思っています。

今回の合宿セミナーを開いて下さった関係者の皆様、とても有意義な3日間を過ごさせていただきましてどうもありがとうございました。今後も多くの日本人を参加させて、国際交流の場をたくさんつくって下さい。私もまた参加させていただくチャンスがあれば、ぜひ参加させていただきたいと思います。本当にありがとうございました。

合宿セミナーに参加して

波塚　義幸

会社員

「百聞は一見にしかず」という言葉がある。ほんとうにそうだと感じた合宿セミナーであった。新聞、テレビ、本などでたくさん韓国の情報が伝えられているが、直接本人たちと話をして、それらの情報が必ずしも正確でなかったり、その背景を知らなかったために、よく理解できなかったことをこのセミナーで正しく知ることができた。また韓国の人たちも現在の日本人の考え方に関し、正しく理解されていないことを感じ、お互い理解されないがために、もしこのままの状態が続くと、いつまでも過去の歴史を引きずったままでいくのではないかと心配に思う。このような合宿セミナーをより多く設け、多くの若者に参加してもらい、日本の姿、韓国の姿について正しく理解してもらいたいと思う。

このような有意義な合宿セミナーがあることを、私は参加するまで知らなかったことが、大変残念に思えます。JICA あるいは実施協力団体に対し、もっと活動の内容を世の中にピーアールしていただきたいと思います。実際の活動内容、それにより得られた結果、残されている問題をピーアールし、多くの人たちにその存在を正しく知ってもらい、国際交流の意味を考えてもらえればよいと思うし、その心要があると感じます。

合宿において言葉の壁というものを確かに感じますが、心があればなんとかなるものだなと再認識したセミナーでした。とくに酒と歌とダンスは世界共通で、だれとでも心を通わせ、打ち解けることができるものだと思います。そのなかでも芸能大会などでは、自然な人々の生活を知ることができたと感じ、韓国が日本の文化の源であると感じました。韓国女性のチマチョゴリはとても美しく、その衣装で聞かせてくれた韓国の歌には、言葉は理解できなくても大変感動しました。残念ながら日本では、隣国であるにもかかわらず、その素晴らしさが伝わっておらず、正しく認識されず誤った偏見で見られていると感じてなりません。

今後このような交流を行う場があれば、私は進んで参加したいと思うし、このセミナーで得た考え、知識、韓国の人の人柄を自分の友人に教えてあげたいと思います、

「百聞は一見にしかず」。彼らから聞いた話、感じ方だけでそのすべてを知ったとは思いません。実際に韓国を訪れて自分の目で見、耳で聞き、心で感じたいと思います。

合宿セミナーに参加して

長谷川　悟朗

会社員

結論から先にいえば、この合宿は私にとって予想していたものの数百倍も素晴らしいものでした。短い期間にあまりにも多くのことを感じたので、頭の中を整理することが今、非常に困難な状態です。少々乱雑になるかもしれませんが、思いつく

ままにこの合宿生活を振り返ってみます。

まず一番韓国の方々のことで尊敬できることは、自分の思いを恥ずかしがることなく、思い切り発散させることがうまく、しかも周りの人たちをとてもよい意味での興奮状態にさせてくれることです。何か彼らと一緒にいると、私たちまで心の底からエネルギーがわいてくるような生きる勇気がわいてくる気がするのです。具体的な例を挙げれば、それは歌です。詳しい歌詞はわかりませんが、躍動的な歌も、しんみりとした歌も、彼らは腹の底から声を出し、みんなで心を込めて歌います。

それは理屈抜きで私をとても感動させ、心地よくさせてくれました。そして、あれだけ多くの曲の歌詞を彼らのほとんど全員が憶えていることがうらやましいと同時に、不思議に感じました。ちなみにあえてひとつ私の気に入った歌を挙げるとすれば、それはやはり「サランヘ」でしょう。芸能交歓会でチマチョゴリを着て、韓国女性がこの歌を歌うようすは、私がこれまで経験したなかで最も印象的なシーンのひとつとして胸に残るでしょう。

次に印象的なできごとは、スポーツを通じて彼らと心の交流ができたことです。バレーボール、足球、卓球、バドミントンなどを一緒に楽しむことで、言葉が通じなくてもお互いの気持ちは通じたと思います。とくに私と同室であったキムさんは、なかなか私たちに言葉が通じなくて苦労していたようですが、彼が一生懸命私に卓球を指導してくれたとき、私は十分彼の気持ちを受け取ることができました。

三つめに思い出に残ったことはグループディスカッションです。私は彼らが私と同じようなことに興味を持っていることがわかり、とてもホッとするとともに、親近感が非常に増しました。家族、恋愛、性、国家、ファッション、仕事…等々、とても幅広く話し合いましたが、考え方はお互い非常によく似ていると思います。ただ少しだけ、われわれのほうが商業主義につかってしまっており、彼らのほうが伝統を重んじているように感じました。

まだまだ書きたいことが一杯ありすぎて、とてもこの紙面では足りません。勤労厚生協会の方々通訳の方々、コーディネーターの方々、このセミナーを支えて下さったすべての方々に感謝しています。

私は彼らと過ごした時間を一生忘れることはできないでしょう。そして、私の周りの人たちに、とても素晴らしいセミナーに参加できたことを伝え、韓国の人たちはとても素晴らしく尊敬できる人たちであると、胸を張って言いたいと思います。私にとって本当に幸せなときが体験できたのですから。

合宿セミナーに参加して

平田　浩二
公務員

今回のセミナーに参加するにあたっては、大きな不安と少しの期待がありました。その原因としては、日本語以外はほとんどしゃべれないということ、そして、外国の方々と宿泊を伴って接した経験がないということでした。少しの期待は、事前研修会や過去参加したことのある同僚などの話を聞くにつれ、もしかしたら外国の友人ができるのではないかということでした。

実際に参加して感じたことは、自分の抱いていた不安は老婆心にすぎなかったということです。韓国の青年たちの屈託のない明るさ、ものおじしない積極性にこちらもついついつられて、徐々にペースを取り戻すことができました。彼らと接してとくに強く感じたことは、今の日本の若者がなくしつつあるバイタリティーでした。そして、自分のこと、家族のこと、仲間のこと、さらには自分の国のことを誇らしげに語る姿に圧倒され、私

は日本人として、それらのことを誇りをもって積極的に嘘いつわりなくしゃべれないことを恥ずかしく思いもしました。

また、彼らと対話することによって、日本と韓国の国情や生活・文化の違いを知ることによって、今まであまり気にとめていなかった日本の風習や技術などを再認識する機会を得ることができたのは幸運でした。正直にいうと、今回のセミナーは上司からの指名で、しかたなく参加したものであり、セミナー後のことなど考えも及びませんでしたが、グループディスカッションの仲間と、今後も文通や相互訪問を約束するまでの仲になれたことはとてもうれしいことでした。

反面、そういう気持ちでの参加でもあり、韓国語を覚えることや韓国のことを事前に勉強することをせずにいた自分が今さらながら情けなく思えました。今後は今回のセミナーでの成果を十二分に発揮して、韓国の友人との文通や相互訪問を実現するとともに、このようなセミナー等の国際交流の場に積極的に参加したいと思います。

また、職場を訪れる外国の方々の接客にも活用していきたいし、外国語（とくに英語と韓国語）も積極的に勉強したいと感じました。今回のセミナー開催にあたってご努力下さった勤労厚生協会・国際協力事業団・相模湖トリムセンター・通訳の方々に心からカムサハムニダ。

合宿セミナーに参加して

森田　隆博
団体職員

今回の合宿セミナーを通じて得られた最大の収穫は、隣国の近くて遠い国といわれた韓国をより身近に感じることができるようになったことです。

古来から交流をもち続けてきており、歴史的にとてもつながりの深い国であり、とくに、近代社会において日本による植民地支配を受けたという不幸な経験を有している。または、最近において順調な経済成長を遂げている姿をソウルオリンピックの成功等を通じて感じられ、一方、政治的関心も学生間のなかで強くあり、学生運動も活発である……等、マスコミを通じておぼろげながら韓国についてのイメージを、自分なりにもっていたつもりでしたが、その国における青年の実態については何も知らず、いわば観念を通してのみの印象しかもちあわせていなかったというのが正直なところ、合宿セミナーに参加する前までの自分でした。

今回の合宿セミナー、とくに討論会を通して韓国青年の日本に対する関心の強さをひしひしと感じましたし、日本の高度経済成長の理由を探り出し、自分たちの国の発展の助けとしようというひたむきな熱意も感じました。

一方では、自分の韓国に対する無知、これは、すなわち〝無関心〟という言葉で置き替えられると思いますが、そういうものに対する一種の気おくれ、恥ずかしさを感じました。

韓国青年との討論のなかで、とくに感銘を受けたのは、農村社会に出て活躍している若者が現実として多くあり、彼らが、それぞれ自分の夢、将来展望を農業に関して持っており、また、その希望の実現にむけて努力しているようすが、参加者の意見のなかの随所に見られたことです。

また、現代社会に同じ世代に生を受けた者同士、基本的に同じ人間であるという、あたりまえすぎてなかなか気づくことのできない事実をお互いに歌を歌ったり、踊ったりしながら肌で実感できたということです。お互いのポリシー、意見、考え方にそれぞれ違いがあるのは当然で、むしろなければならないものだと私は思うのですが、それを越えたところにある共通の同じ人間なのだという認識がもてたこと、それが、今後、韓国という国に接する機会をもつとき、公正な視点を保つための有益な体験となりました。

今後は、韓国をよりよきパートナーとして、互いに共存し、よりよい関係を築くために、日本という国に生まれたひとりの人間として、偏見のない見方で、両国の発展、ひいては世界のなかでの役割についても、折にふれて考えてみたいと思います。

合宿セミナーに参加して

吉松　尚子
学　生

私にとって他国の人々との交流というのは、今回のセミナーが初めての経験でした。まったく未知のものに取り組むときというのは、期待と不安でいっぱいなものです。私も例外ではありませんでした。

彼らを初めて目にしたときの第一印象は「同じだ」ということでした。以前からよく耳にしていたことでしたが、まさか自分もまったく同じことを感じるとは思いませんでした。姿形がこんなにもよく似ている韓国の人々と私たち日本人。お互いに理解し合えて、セミナー後も交流し続けることができたらなんて素敵なんだろうと思いました。

彼らはとても親しみやすく、当初、私が抱いていた不安の気持ちはいつの間にか消えてなくなっていました。また、パワーに満ちあふれていて、いつも生き生きとしているイメージが大変強く残っています。花火や文化紹介のクイズ、レクリエーションなどでのみんなの無邪気な姿。ディスカッションのときの熱いまなざし。

これは同時に日本人についても言えることです。みんな輝いて見えました。そのとき一瞬一瞬を確実に生きている、肩肘張らずに。皆のそんな姿に感銘を受けました。

私はいつも何かを感じていたい、感じる心を大切にしていきたいと思っています。研修会から始まったこの2カ月の間、みんなと接触していく過程で、私はさまざまなことを感じ、学び取り、自らの心の糧としてきました。自分の所属した文化学習会では、試行錯誤しながらもみんなでひとつのものを作り上げていくことの素晴らしさを知りました。周りから「文化学習会よかったよ、すごく」と言われたときは、涙が出るほどうれしかったです。今まで感じたことのなかった充実感を得ることができました。

私にとって本当に刺激の多い2カ月でした。こんな機会をつくって下さった関係者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。韓国側とはこの短い4日間では真の理解を深めることはできませんでした。しかし、そのきっかけをつかめたことは確信します。お互いの文化の相異点を認識できただけでも、私は大きな収穫と考えます。スタート地点に立った今、これから彼らとどう接触していくかはみずからにかかっているのです。

合宿セミナーに参加して

吉原　正道
会社員

今回のセミナーは数少ないリピーターとしての参加となった。前回の事前準備の少ない状態と異なり、すでに知識と経験、また、ソウルに行ったという見聞を得ている状態である現在の自分を考えると、周りの皆さんと比較し、新鮮な気持ちをもってセミナーに参加できるかという逆の不安があったが、それはいらぬ心配であった。確かに知識として得られるものは少なかったと思う。しかし、日常生活において率直に、かつ純粋に自分の意見を話し、また、人の話を聞くことの少ない会社員としての生活から離れ、ひとりの人間として心を開く機会が与えられるという点では素晴らしいことだと思う。このよいな機会を一瞬の思い出にしてしまうことなく、自分の置かれた社会環境においても、少しでも心を開いてものごとを話す

機会を積極的につくっていけるよう努力していかねばならないと思う。

同様に、今回知り合うことのできた仲間との友情も、一瞬の思い出にせず、交流の第一歩という考えで、あくまでも自分の意志で継続していかねばならないと思う。自分自身としては、この韓国青年との交流を、今後も自分の力によって継続していく意志を確認することのできた点が、このセミナーに参加して最もよかったと思うことである。

最後にふたつの希望を述べてみたい。ひとつは、われわれ日本人青年が韓国を訪問し、彼らと会う機会を設けてほしいという点である。ふたつ目は、このセミナーに参加した日本青年のOB組織を結成し、たとえ同じ年の参加者でなくとも共通の話題を持つ友人の輪を広げていくことを提案したい。本来ならば、上記の二点は自発的に行われるものであるが、社会人であるわれわれの現状を考えると、ある程度トップダウンで行わないと難しいと思う。このセミナーも回数の制限があると聞いているが、できれば自分の子供の世代になっても継続されているようになれば素晴らしいと思う。

4. ホストファミリーの思い出

ホストファミリーを引き受けて

伊原　邦治
山口県

近ごろ、ホームステイとかホストファミリーという言葉をよく耳にするようになり、また新聞でもホームステイの話題がよく掲載されるようになりました。当市でも私立高校へホームステイ先から通学している女子高生を、時折見かけることがあります。言葉や生活習慣、食事などがまったく異なるので、留学生もホストファミリーも大変だろうなと思ったりしていましたが、突然わが家も韓国の高校の先生のホストファミリーを引き受けることになりました。

わずか2日間だけですが、食事のこと、日曜日の一日をどのようにおもてなしするかが、とても気がかりでした。お借りしたビデオはホームステイの理想像で、とても立派なものでしたので不安もあり、あれこれと思い巡らしているうちに当日になりました。

小郡まで娘と一緒に出迎えに行き、納涼茶会が雨で中止となったので予定より早くわが家へ到着しました。早速ビデオにあったように家族や家の中を紹介し、お風呂をすすめましたがあとでよいと言われ、夕食にしました。はしを上手に使われて、用意した食事はどんなものでもよく食べられて、食事に関する不安はいっぺんになくなってホッとしました。

お互いに初対面なので、なんとなくぎこちなさはありましたが、出迎えに行った娘がときどきしゃべり、私と話をしているのをみんなが聞きながら食事はすすんでいきました。

大変疲れているように感じましたし、本人も「ベリー・タイヤード」といわれ、朝食の希望時間をお聞きしてやすんでいただきました。

翌日、日曜日なので教会に礼拝に行きたいといわれ、韓国教会へ娘と3人で出かけました。教会の牧師さんも信者の方も大変喜ばれて、彼も韓国語で実にうれしそうに、いろいろと話をしておられました。お昼には、ソーメンまでごちそうになって帰りました。

これまでのスケジュールがハードだったのでしょうか、午後は休憩をしたいということでゆっくりと昼寝をしてもらいました。

夕方から、7人の家族が全員そろって、庭で歓迎の宴を催しました。炭火を囲んでバーベキューをし、歌を歌いました。「アリラン」や「トラジ」をはじめ、「踊るポンポコリン」「乾杯」「氷雨」「ブルーライトヨコハマ」……。独唱ありデュエットあり合唱ありで、宴が最高潮になったころに夕立がきて、あわてて家の中へ駆け込むという場面もありました。

ゆっくり休まれてお元気になられたようすで、夜遅くまで話が弾みました。韓国の政治、経済、オリンピック、植民地時代のことや済州島の話題まで、いろいろなことを話しました。言葉はけっして十分に通じたわけではありませんが、身ぶりや手ぶりで、お互いに母国語が英語ではないので、ゆっくり考えながらしゃべる英語と、彼が国語の先生なので漢字による筆談で話は盛り上がりました。

ホームステイの目的からすると、もっと小野田や宇部を知っていただくために、いろいろ案内したり、日常生活を見てもらわなくてはいけなかっ

たのではないかと反省もしています。

教会で同胞たちと楽しそうに韓国語で話をしている彼の姿を見たり、「ゆっくり好きなように休ませてもらえて元気になりました」といわれたりし、こういう形でもよかったのかな、と思ったりもします。

戦前、ソウルに住んでいた両親はもちろん、私や子供たちも韓国をとても身近に感じた2日間であり、楽しい2日間でもありました。

金先生の思い出

大渕　達弥
山口県

光ユネスコ協会のお世話で、韓国はカンウオン高校の体育教師・金慶洙さんを拙宅にお迎えしたのは、奇しくも彼の34歳の誕生日7月27日であった。

初対面は浅江公民館での歓迎式。力強い握手を交わし、にこやかな笑顔を見ていっぺんで緊張感が解け、これならなんとか慣れないホームステイもうまくいけそうだと安心できた。そんな雰囲気をもっている金先生である。中部大学卒、180センチを超す長身、バレーボールでは国際級の実力をもつスポーツマン、ソウルオリンピック出場……、聞けば聞くほど頼もしい人物である。

わずか2日間の民泊であったが、「21世紀のための友情計画」による日韓親善にささやかながらお役に立てたこと、韓国に対する知識が広がり楽しい思い出ができたこと等々、こんな機会を与えて下さった関係者に対し厚くお礼を申し上げたい。

さて、思い出をたどってみることにする。

滞在のタイミングがよかったのか、当日の夜は室積の波止場で花火大会があった。小雨模様ではあったが、会場は夕涼みの人で一杯。腹の底まで響く爆発音とともに夏の夜空に広がる色彩り鮮やかな花火の輪がもたらす興奮は万国共通である。金先生も満足そうであった。

翌日は朝8時から、光製鉄所構内グラウンドで濱田重工光支店のマラソンソフトボール大会に出場した。20代から50代まで40人の選手が両軍に分かれ、入れ替わり立ち替わり守備につき、正午まで戦うものである。金先生、ソフトボールはあまりやったことがないということであったが、さすがに体育教師、すぐ要領をのみこみ2打席目からは豪快なスイングで長短打の連続、炎天下での大活躍であった。社員からも「キムさん、すごい」と賞賛しきり。ここでも面目躍如の人気者であった。

この件は同社の社誌「はまゆう」に掲載される予定である。でき上がりしだい、先生宛に郵送するつもりである。

汗と汚れをサウナで流したあと帰宅。テレビで光高の野球県予選を観戦。ベスト8まで残った光高が惜敗すると、天を仰いで嘆息することしきり。光市民そのものである。こんな金先生であるが感心したことは、その礼儀正しさ。食事の際、小生が手をつけないとすべてが始まらない。家内がまず御飯をよそい差し出しても、それを小生に差し出し、先には受け取ってくれない。韓国では父系血縁原理が社会関係の基盤になっているそうで、これがあたりまえだとのことである。煙草も酒もまた同じである。父親の前では煙草も控えるのが常識だそうである。現代の日本では信じられない慎み深さである。

次に会話についてである。すべて日本語でOKと思っていたが、さにあらず。彼が準備していたノートでキーワードを見つけるのには時間がかかる。されば英語で、と思っても小生の怪しげな発音ではフルには通じない。結局、一番の役割を果たしたのは家内の日本語交じりのボディーランゲージと、数年前、韓国に出張した折に求めた韓国会話の小冊子であった。要領がわかると、日韓英の三カ国語でおしゃべりを楽しむことができた。

3日目の朝、オリエントホテルに車で送り別れる際、手を振る家内に応えながら目頭をそっと拭った金先生を忘れることができない。光に民泊された方は合計4名であったが、光でのお別れパーティーに7月30日に参加した。ところは室積海水浴場。金先生以外は女性教師で辛先生、李先生、文先生である。なかでも辛先生は日本語がうまく、日本人と区別がつかぬほどであった。コーディネーターの森下さんは韓国語が巧みで、これまた区別がつかぬレベルである。おかげで通訳をしてもらい、今まで以上に先生方の考え方、日本の印象などがよく理解できた。小生、何事も三日坊主のくせがあるが、これを機会に韓国語に挑戦してみようと思った。

焼肉とビールと合唱のお別れパーティーであったが、日の暮れるのも気づかぬほどの楽しいパーティーであった。お世辞ぬきに光が気に入っていただけたようで、市民のひとりとしてうれしい思いがした。金先生が小生のことを「イルボンアボジ」と呼ぶという。これもうれしいかぎりである。

金先生、これからもますます健康に気をつけられ、韓国教育界で活躍されますようお祈り申しあげます。そのうち、きっと家内と一緒に韓国に遊びに行くつもりです。そのときはよろしく。

「21世紀のための友情計画」に参加して

中島　千賀子
山口県

暑い夏の初めに、隣国、韓国の若い女性をわが家に2泊3日でお迎えしました。

当夜は、私どもの知人の若い女性を5、6人招待し、バーベキューパーティーを用意しました。漢字による筆談で意思の疎通もでき、彼女を囲んで10人余りが楽しい時間をもちました。彼女は高校の先生らしい豊かなお人柄と見うけられました。また、アジア人らしい謙虚さを身につけた方で、彼女との出会いは、確かに隣人と呼べるほどの親密感を覚えるものでした。

また、このたびは、高校1年の娘が1週間後にアメリカでのサマーキャンプ参加を控えていただけに、海外の方を迎える私のほうも、もうすぐ迎えられる立場になる娘の姿と、重なり合うものがありました。

下関は韓国の釜山と高速船で3時間の地にあります。しかし、私にとって、いままでけっして近くに感じられる隣国ではありませんでした。こうして地方に住んでおりますと、海外と方との交流が極端に少ないのが現状です。同じアジアを旅行しても、国によっては陸続きということもあるのでしょうが、数多くの国々の方に会うことができます。そのことは、私にとって驚きでした。

これだけ経済、文化に恵まれた国です。国内にいても、海外の方々ともっと接触する機会をつくり、私のように地方に生活する人間も、世界のなかでの世間知らずにならないように努力したいものだと感じております。

こうした国際協力事業団やユネスコの方々の努力が、広く実を結びますように、と痛切に願っている昨今です。

母と初めてのホームステイ受け入れ

仁田　富子
山口県

「ここが私の家です。さあ、中へどうぞ」。家族全員で崔さんをお迎えしました。

夕食の食卓を囲みながら、お互いの自己紹介、仕事の話、日本と韓国の生活習慣の違い、そして崔さんの家族の話をしながら楽しいひとときを過ごしました。

ホームステイ受け入れをすると決めたときから、問題は言葉でした。いざとなったら絵を描いて示せばいい。それしかほかに方法はないと心に決め

ていました。でもさいわいにも崔さんは日本語が話せ、家の中での会話は日本語でした。

夕食のあと、崔さんに浴衣をプレゼント。いい浴衣ではなかったがとても喜んでくれ、早速、母に着せてもらいました。そして、私は崔さんのチマチョゴリを着せてもらって一緒に記念撮影。ホームステイも楽しいもんだなと思った初めての瞬間でした。

次の日は岩国名物の「岩国寿し」を一緒に作るため、朝から皆で近くのスーパーへ買い物に行きました。家に帰ると、早速、母が崔さんに作り方を教えていました。崔さんが母に教わりながら下ごしらえをしているのをそばで見ていた私は、「手際がいいなあ」と思わずうなってしまいました。

昼食は、崔さんが韓国から持ってきた韓国の即席ラーメンと、日本のおむすびとお漬物でした。母はすっかり崔さんを気に入ったようすでした。崔さんも「私の母と一緒」と、これまた母を気に入ってくれたようす。ホームステイもあと少し。楽しいという気持ちより寂しくなるという気持ちが大きくなってきました。

ホームステイ最後の日の朝、崔先生が家族ひとりひとりにサヨナラのあいさつをしていました。母は何度も何度も「元気でね。また来て下さいね」と繰り返していました。私は頭の中でいろいろな言葉を考えていましたが、口に出たのは、「また、岩国のこの家に帰って来て下さいね」の一言でした。

短かった2泊3日のホームステイも無事終わり、今だから話せる裏話があります。

ホームステイ引き受けはすんなりと決まったわけではありません。家族のひとりが「大反対」をしたのです。母でした。「人を家に泊めることでさえ気遣いで大変なのに、ましてや言葉のわからない人を泊めるなんてもってのほか」という具合でした。しかし、ホームステイ中、一番崔さんのことを気にかけ、世話をやいていたのは母でした。そして、家族のなかで一番崔さんを気に入ったのもホームステイ引き受け大反対の母でした。崔さんが帰って2、3日は口を開けば、「今、どこかねぇ。今、何しよってかねぇ」の連発でした。

先日、母が「韓国ってどんなところか行ってみたいねぇ」と言ったときは驚きました。今まで一度も外国の話なんてしたこともなかったし、「高い運賃払ってまで海外に行きたくもない。それより温泉にのんびりつかるほうがよっぽどいい」と言っていたのです。1年前から家族で北海道旅行を計画していたのですが、突然、母が「北海道旅行をやめて韓国に行こう」と言ったときには、「ホームステイってすごい！」と思ってしまいました。

たった2泊3日のホームステイで、ここまで人の心を変えることができるのですから。母にとってのホームステイは、「生まれて初めて外国の人を自分のなかに受け入れる」というショックと戸惑いであったのだと思います。それが崔さんとのひとつの出会いによって「人と触れ合うことの楽しさ、素晴らしさ」に変えられたのだと思います。たとえ国は違っても、言葉は通じなくても心は通じ合うものだと思います。そのことを今回母に教えて下さった崔さんに感謝します。

今、わが家では北海道旅行に代わって来年の夏、崔さんと崔さんの家族に会いに行こうという計画が着々と進んでいます。

ホームステイで国際平和を！

大見謝　辰男
沖縄県

この7月、私たち家族は、初めて外国（韓国）のお客さんをホームステイにお迎えする素晴らしい体験に恵まれましたので、ご紹介します。

6月、職場の掲示板を何気なく眺めていると、韓国青年訪問団のホームステイ先を県職員から10家族募集しているという文書が目に入りました。

子供たちにも良い経験になると思い、早速応募しました。

長女の若奈（中２）や次女の理奈(小６)は、小学生のときから島内のアメリカ人の家庭に何度かホームステイをしています。子供から、言葉が通じなくても、絵を描けばなんとか意思は通じるということを聞いていたので、コミュニケーションについてはさほど心配はありませんでした。

７月24日、那覇市内のホテルで県知事主催の歓迎パーティーがあり、家族で参加しました。

わが家にお迎えする予定の方は、李永玉（イーヨンオク）さんという25歳の女性で、農家の方です。

ホストファミリーの申し込み用紙に、わが家には子供部屋にしかクーラーがないとか、室内犬がいるので動物嫌いはだめだとか、愛煙家お断りなどとこまごました注文を記入して提出したので、誰も来てくれないだろうなとあきらめていたのですが、永玉さんが来てくれることになりました。

永玉さんは、会ってみるとやや小柄で清楚でかわいいお嬢さん。子供たちも大喜びで、にわかじこみの韓国語で自己紹介をしていました。

27日、いよいよホームステイの日。末っ子の小学３年生の星斗は胸がどきどきして興奮しています。

わが家にとっては幸運にも、この日は台風来襲。というのは、家族で一番頼りになる長女の若奈が、台風のため中体連の陸上競技大会が延期となり、家にいてくれるからです。

案の定、私が会話に悪戦苦闘しているのを尻目に、若奈は韓国語の会話教本を片手に、いろいろと話を聞き出しています。わが子ながら脱帽してしまいます。

この夜は私のギター伴奏で「君といつまでも」などの日本の歌や「釜山港に帰れ」などの韓国の歌を合唱したり、わいわい騒ぎながらゲームをしたりと、本当に楽しい一日でした。

次の日も、朝から嵐が吹き荒れています。永玉さんには午前中のんびりしてもらい、風雨が弱まった午後から街に出て、映画やウインドーショッピングを楽しみました。

夜は民族衣装を着せてもらったり、韓国語で歌を教えてもらいました。子供たちはハングル文字で何やら書いています。人見知りの激しい室内犬のリッキーも、永玉さんにすっかりなついてしまいました。

３日目、永玉さんは沖縄市の運動公園で若奈の陸上競技を応援したあと、皆の待つホテルへと戻っていきました。

ホームステイを振り返ってみると、ひとコマひとコマでは言葉は通じなくても、全体を通してみると心と心は十分に通いあっていたと思います。突っ込んだ会話は皆無でしたが、お互いの文化を理解しようというきっかけにはなりました。

ホームステイなどを通じ、多くの方が国境を超えた相互理解や友情を深めていけば、国際平和に向けて、また一歩前進することでしょう。

ホームステイを終えた私たち家族の気持ちは、末っ子の星斗の言葉によく表れています。

「お父さん、次の(わが家への)ホームステイはどこの国の人が来るの？」と。

実績資料

1. 韓国窓口機関（現地プログラム実施機関）

大韓民国教育部社会国際教育局社会教育振興課

2. 現地プログラム実施日程

		プログラム内容		実施場所
6/25	火		開講式、本事業説明、JICAブリーフィリング、グループ別プログラム説明、レクリエーション、グループ別対話	ソウル
26	水	講義「韓国と日本の関係」 生活日本語学習(1)	日本歌謡練習(1)、韓国歌謡練習(1)、 講義「日本文化の理解」、日本訪問時留意事項、'90年度参加所感、グループ別対話	〃
27	木	講義「日本の歴史」 生活日本語学習(2)	日本歌謡練習(2)、韓国歌謡練習(2)、 日本生活の理解、日本文化映画上映、歓送会、グループ別対話	〃
28	金	講義「我々の統一政策」 生活日本語学習(3)、派遣者基本教育		〃

3. 実施日程

青年指導者グループ

月日	曜日	プログラム内容	実施場所
7/9	火	来日　生活ガイダンス	東京
10	水	本計画のブリーフィング　開講式　昼食懇談会　団体プログラム紹介　日本語学習	〃
11	木	講義「日本の産業と経済」　日本語サロン	〃
12	金	日本語学習　講義「日本の近・現代史」　武道鑑賞および交歓会	〃
13	土	体験的日本語学習打ち合わせ　体験的日本語学習	〃
14	日	〈自主研修〉	〃
15	月	日産自動車見学　日本語サロン	〃
16	火	講義「日本と韓国」　講義「日本の社会と文化」	〃
17	水	オリエンテーション　総務庁訪問	〃
18	木	世田谷区庁訪問　教育センター　世田谷区ボランティア協会	〃
19	金	三重へ移動　大台町町長表敬　合宿セミナー開講式	三重
20	土	分科会Ⅰ　分科会Ⅱ　スポーツ交流　料理交歓会　キャンプファイアー	〃
21	日	全体討議　「みえこどもの城」見学	〃
22	月	県庁表敬　県概要説明　青少年対策についての概要説明 青少年団体とのレクチャーフォーラム　歓迎レセプション	〃
23	火	自主研修	〃
24	水	総合教育センター訪問　高田本山専修寺見学 鈴鹿市伝統産業会館見学　国際交流参加青年との座談会	〃
25	木	授産施設訪問　産業貿易施設見学	〃
26	金	御在所岳ユースホステルにて活動体験　ホームステイ引き渡し	〃
27	土	〈ホームステイ〉	〃
28	日	〈ホームステイ〉　レクリエーション	〃
29	月	松阪城跡・松阪木綿手織センター・伊勢神宮見学	〃
30	火	金剛証寺・御木本真珠島・島羽水族館・夫婦岩見学	〃
31	水	三重県評価会　歓送会	〃
8/1	木	広島へ移動　平和公園・原爆資料館見学　韓国人慰霊碑参拝	広島
2	金	宮島・厳島神社・民俗資料館見学　京都へ移動	京都
3	土	奈良（法隆寺、東大寺、奈良国立博物館）見学	〃
4	日	金閣寺・清水寺・西陣織会館・ギオンコーナー見学	〃
5	月	東京へ移動	東京
6	火	〈帰国準備〉	〃
7	水	帰国についての説明・諸手続き　評価会　歓送会	〃
8	木	帰国	

教員グループ

月日	曜日	プログラム内容	実施場所
7/9	火	来日　生活ガイダンス	東京
10	水	本計画のブリーフィング　開講式　昼食懇談会　団体プログラム紹介　日本語学習	
11	木	講義「日本の産業と経済」　日本語サロン	〃
12	金	日本語学習　講義「日本の近・現代史」　武道鑑賞および交歓会	〃
13	土	体験的日本語学習打ち合わせ　体験的日本語学習	〃
14	日	〈自主研修〉	〃
15	月	日産自動車見学　日本語サロン	〃
16	火	講義「日本と韓国」　講義「日本の社会と文化」	〃
17	水	オリエンテーション　国立教育研究所（講義・概要説明・見学）	〃
18	木	茶道（裏千家）体験　河合塾見学	〃
19	金	放送大学訪問　御台場公園　川崎市ハングル教室受講生との交流会	〃
20	土	長野へ移動　合宿セミナー開講式　交流の夕べ	長野
21	日	基調講演　分科会討議Ⅰ　分科会討議Ⅱ	〃
22	月	分科会討議Ⅲ　全体討議　閉講式　蓼科高原見学　東京へ移動	東京
23	火	山口へ移動　オリエンテーション	山口
24	水	山口県庁表敬　KDDインテルサット見学　常栄寺・五重塔・重福寺見学　歓迎レセプション	〃
25	木	秋芳洞見学　秋吉台見学　関門橋・関門トンネル見学　火の山公園見学　赤間神宮見学	〃
26	金	土井ヶ浜遺跡見学　海水浴	〃
27	土	坂高麗左衛門窯見学　東光寺　松下村塾見学　ホームステイ引き渡し	〃
28	日	ホームステイ（豊北町　下関市　宇部市　光市　岩国市へ）	〃
29	月	ホームステイ（教育関連施設訪問　交歓会）	〃
30	火	〈自主研修〉	〃
31	水	岩国へ移動　錦帯橋見学　歓送会	〃
8/1	木	広島へ移動　宮島・厳島神社・民俗資料館見学 広島平和公園・原爆資料館見学　韓国人慰霊碑参拝	広島
2	金	〈自主研修〉	〃
3	土	京都へ移動　古代友禅苑・金閣寺・北野天満宮見学	京都
4	日	奈良（法隆寺・東寺・奈良国立博物館）見学	〃
5	月	二条城見学　東京へ移動	東京
6	火	〈帰国準備〉	〃
7	水	帰国についての説明・諸手続き　評価会　歓送会	〃
8	木	帰国	

勤労青年グループ

月日	曜日	プログラム内容	実施場所
7/9	火	来日　生活ガイダンス	東京
10	水	本計画のブリーフィング　開講式　昼食懇談会　団体プログラム紹介　日本語学習	〃
11	木	講義「日本の産業と経済」　日本語サロン	〃
12	金	日本語学習　講義「日本の近・現代史」　武道鑑賞および交歓会	〃
13	土	体験的日本語学習打ち合わせ　体験的日本語学習	〃
14	日	〈自主研修〉	〃
15	月	日産自動車見学　日本語サロン	〃
16	火	講義「日本と韓国」　講義「日本の社会と文化」	〃
17	火	労働省　労働大臣表敬　浅草寺見学　日本青年との交流会	〃
18	木	(勤労青年)　新宿コミュニティーセンター見学　NTT東京支社（説明・見学・職員とのグループディスカッション） (農村青年)　群馬県立農業総合試験場（説明・見学・質疑応答）フラワーパーク　農家訪問	〃
19	金	相模湖へ移動　オリエンテーション　意見発表と質疑応答　グループディスカッション	神奈川
20	土	グループディスカッション　グループディスカッション　交流パーティー	〃
21	日	グループディスカッションまとめ　全体発表会　お別れセレモニー	東京
22	月	自主研修	〃
23	火	沖縄へ移動　JICA歓迎式　オリエンテーション　県概要説明	沖縄
24	水	講義「沖縄の歴史と韓国との関わりについて」　県庁表敬　県立博物館、琉染見学　歓迎レセプション	〃
25	木	青年とのグループディスカッション　［分野別視察］　科学技術処グループ…沖縄電力見学 農村青年グループ…優良農家・農業協同組合見学　勤労青年グループ…県卸商業団地見学	〃
26	金	オリオンビール工場見学　海洋博記念公園見学　B&G財団見学　海辺にて日本青年との交流会	〃
27	土	パイナップル園見学　琉球村見学　ホームステイ引き渡し	〃
28	日	〈ホームステイ〉	〃
29	月	〈ホームステイ〉	〃
30	火	JICA沖縄研修センター見学　琉球ガラス工場見学　韓国人慰霊塔参拝 平和祈念堂見学　玉泉洞見学	〃
31	水	さよならパーティー	〃
8/1	木	広島へ移動　平和記念公園　原爆資料館　韓国人慰霊碑参拝	広島
2	金	倉敷へ移動　大原美術館見学　瀬戸大橋を経て高松へ移動	香川
3	土	栗林公園見学　京都へ移動　金閣寺・西陣織会館見学	京都
4	日	保津川下り　嵐山　古代友禅苑見学	〃
5	月	二条城・清水寺見学　東京へ移動	東京
6	火	〈帰国準備〉	〃
7	水	帰国についての説明・諸手続き　評価会　歓送会	〃
8	木	帰国	

学生グループ

月日	曜日	プログラム内容	実施場所
7/9	火	来日　生活ガイダンス	東京
10	水	本計画のブリーフィング　開講式　昼食懇談会　団体プログラム紹介　日本語学習	〃
11	木	講義「日本の産業と経済」　日本語サロン	〃
12	金	日本語学習　講義「日本の近・現代史」　武道鑑賞および交歓会	〃
13	土	体験的日本語学習打ち合わせ　体験的日本語学習	〃
14	日	〈自主研修〉	〃
15	月	日産自動車見学　日本語サロン	〃
16	火	講義「日本と韓国」　講義「日本の社会と文化」	〃
17	水	オリエンテーション　東京証券取引所見学　歌舞伎鑑賞	〃
18	木	グループ別大学見学（東京大学・お茶の水女子大・明治大学・早稲田大学・東京外大・ICU）	〃
19	金	山中湖へ移動　合宿セミナー開講式　自己紹介　分科会Ⅰ　文化学習会Ⅱ	山梨
20	土	分科会Ⅰ　レクリエーション　分科会Ⅱ　文化学習会Ⅰ	〃
21	日	分科会Ⅱ　交歓の夕べ	〃
22	月	富士山五合目	〃
23	火	〈自主研修〉	〃
24	水	岡山へ移動　県庁表敬訪問　オリエンテーション　歓迎会	岡山
25	木	倉敷市庁表敬訪問　よしうら保育園訪問　瀬戸大橋見学	〃
26	金	川崎製鉄・水島製鉄所見学　倉敷張り子見学　ホームステイ引き渡し	〃
27	土	〈ホームステイ〉	〃
28	日	〈ホームステイ〉　交流の夕べ	〃
29	月	岡山城・後楽園見学　大学生との交流	〃
30	火	スポーツ交流　朝鮮使節資料館　本蓮寺見学	〃
31	水	歓送会	〃
8/1	木	広島へ移動　平和記念公園・原爆資料館見学　韓国人慰霊碑参拝	広島
2	金	宮島・厳島神社・民俗資料館見学	〃
3	土	京都へ移動　金閣寺・古代友禅苑・清水寺・ギオンコーナー見学	京都
4	日	平等院・法隆寺・東大寺見学	〃
5	月	東京へ移動	東京
6	火	〈帰国準備〉	〃
7	水	帰国について説明・諸手続き　評価会　歓送会	〃
8	木	帰国	

4. 韓国青年招へい実績一覧

●昭和62年度(100名)

	人数	実施協力団体	実施県	JICA支部	地方協力団体	県等窓口機関	プログラムコーディネーター	JICAコーディネーター
勤労青年	35	青少年育成国民会議	神奈川	関東	韓国青年歓迎委員会	神奈川県県民部青少年室	浜岡美知枝	黒沢　熊夫 森下　隆雄 金　勝范
農村青年	25	中央青少年団体連絡協議会	青森	東北	青森県青少年団体連絡協議会	青森県総務部文書課国際交流班	佐藤　忠良	牛尾　恵子 榎本　美和
青年指導者A	20	中央青少年団体連絡協議会	栃木	関東	栃木県青少年団体連絡協議会	栃木県県民生活部婦人青少年課	西広　咲子	板坂　純義 坂本由紀恵
青年指導者B	20	国際交流サービス協会	福岡	九州	福岡県海外協会	福岡県企画振興部国際交流課	増田　忠幸	相田　欣乃 松本　周司

＊青年指導者Bグループには団長・副団長・幹事が含まれる。

●昭和63年度 (99名)

	人数	実施協力団体	実施県	JICA支部	地方協力団体	県等窓口機関	プログラムコーディネーター	JICAコーディネーター
教員A (小学校教師)	25	中央青少年団体連絡協議会	岩手	東北	岩手県青年団協議会	総務部総務学事課国際交流係	佛木　完	浜岡美知枝 板坂　純義
教員B (中学校教師)	25	青少年育成国民会議	和歌山	関西	和歌山県海友会	民生部青少年婦人課	趙　南星	森下　隆雄 榎本　美和
教員C (高等学校教師)	24	国際交流サービス協会	長崎	九州	長崎県海外協会	企画部国際交流課	原谷　治美	牛尾　恵子 金　鍾憲
学生 (文科系)	25	世界青少年交流協会	岐阜	中部	日本国際連合協会岐阜県本部	総務部総務課	臼井　千里	坂本由紀恵 徐　振煥

＊団長は教員Bグループ、副団長は教員Cグループ、幹事は教員Aグループおよび学生グループに1名ずつ含まれる。

●平成元年度(99名)

	人数	実施協力団体	実施県	JICA支部	地方協力団体	県等窓口機関	プログラムコーディネーター	JICAコーディネーター
勤労青年	31	勤労厚生協会	宮城	東北	仙台青年会議所	国際交流室	青山富士彌 寺井　昇	森下　隆雄 榎本　美和
学生	30	世界青少年交流協会	香川	四国	香川県海外派遣友の会	民生部青少年対策室	臼井　千里	坂本由紀恵 片　順玉
教員	20	国際交流サービス協会	北海道	北海道	北海道青少年団体連絡協議会	総務部知事室国際交流課	原谷　治美	浜岡美知枝 徐　振煥
青年指導者	18	青少年育成国民会議	島根	中国	島根県国際交流青友会	総務部総務課	湊　明弘	牛尾　恵子 高　龍煥

＊青年指導者グループに団長・幹事、学生グループに副団長、勤労青年グループに幹事が含まれる。

●平成2年度(100名)

	人数	実施協力団体	実施県	JICA支部	地方協力団体	県等窓口機関	プログラムコーディネーター	JICAコーディネーター
学生	31	世界青少年交流協会	富山	中部	富山県世界青年友の会	企画県民部婦人青少年課	臼井　千里	牛尾　恵子 埴岡　美矢
教員	21	国際交流サービス協会	青森	東北	青森県青少年団体連絡協議会	総務部文書課国際交流室	赤沢みよ子	森下　隆雄 榎本　美和
勤労青年	31	勤労厚生協会	奈良	関西	奈良世界青年友の会	商工労働部労政課	鹿沼　安弘 寺井　昇	坂本由紀恵 片　順玉
青年指導者	17	中央青少年団体連絡協議会	北海道	北海道	日本青年協会北海道支部	北海道受入実行委員会	北田由美江	浜岡美知枝 徐　振煥

＊団長は青年指導者グループ、副団長は学生グループ、幹事は教員グループおよび勤労青年グループに1名ずつ含まれる。

●平成3年度 (98名)

	人数	実施協力団体	実施県	JICA支部	地方協力団体	県等窓口機関	プログラムコーディネーター	JICAコーディネーター
青年指導者	19	青少年育成国民会議	三重	関西	三重県青少年育成県民会議	福祉部青少年課	湊　明弘 安　正煥	埴岡　美矢 関根　弘子
教員	20	日本ユネスコ協会連盟	山口	中国	山口県ユネスコ協会連盟	教育庁文化課	仲重　恵理	森下　隆雄 丁　貞連
勤労青年	28	勤労厚生協会	沖縄	沖縄	沖縄県国際交流財団	総務部知事公室国際交流課	鹿沼　安弘 寺井　昇	牛尾　恵子 姜　乘國
学生	31	世界青少年交流協会	岡山	中国	岡山世界青年友の会	倉敷市教育委員会	石井　由理	榎本　美和 片　順玉

＊団長は青年指導者グループ、副団長は学生グループ、幹事は教員グループおよび勤労青年グループに1名ずつ含まれる。

5. 平成3年度青年招へい事業受け入れ実績一覧

受入時期	国名	分野名	人数	実施協力団体	実施県
5月14日～6月13日	マレイシア	勤労青年	20	ユースワーカー能力開発協会	高知
1陣 120名	〃	学生	20	日本国際生活体験協会	福島
	フィリピン	学生(農業系)	20	全国農村青少年教育振興会	宮崎
	〃	教員	20	国際交流サービス協会	茨城
	タイ	勤労青年	20	勤労厚生協会	大分
	〃	学生(マスコミ関係)	20	世界青少年交流協会	大阪
5月28日～6月27日	ASEAN混成	学生	30	日本ユースホステル協会	長野
2陣 160名	ASEAN混成	教員	25	日本ユネスコ協会連盟	和歌山
	ブルネイ	教員・学生	20	世界青少年交流協会	岐阜
	インドネシア	教員	25	青年海外協力協会	山形
	〃	テーマA	20	ユースワーカー能力開発協会	福島
	シンガポール	学生	20	国際交流サービス協会	鹿児島
	〃	教員	20	青少年育成国民会議	北海道
7月2日～8月1日	フィリピン	勤労青年Ⅰ(産業系)	25	日本経済青年協議会	長崎
3陣 134名	〃	テーマB	20	青少年育成国民会議	佐賀
	シンガポール	青年指導者	22	日本国際生活体験協会	富山
	〃	公務員Ⅰ	22	国際交流サービス協会	宮城
	タイ	青年指導者	25	日本青年団協議会	滋賀
	〃	テーマA	20	勤労厚生協会	愛知
7月9日～8月8日	韓国	青年指導者	19	青少年育成国民会議	三重
4陣 98名	〃	教員	20	日本ユネスコ協会連盟	山口
	〃	勤労青年	28	勤労厚生協会	沖縄
	〃	学生	31	世界青少年交流協会	岡山
8月20日～9月19日	ASEAN混成	公務員Ⅰ	27	国際交流サービス協会	岩手
5陣 161名	インドネシア	勤労青年	25	勤労厚生協会	福井
	〃	テーマB	20	日本ユースホステル協会	京都
	マレイシア	農村青年(公務員)	20	全国農村青少年教育振興会	兵庫
	〃	テーマB(青年指導者)	25	青年海外協力協会	群馬
	シンガポール	勤労青年	21	日本経済青年協議会	奈良
	〃	公務員Ⅱ	23	ユースワーカー能力開発協会	静岡
8月27日～9月26日	ASEAN混成	公務員Ⅱ	30	青少年育成国民会議	九州
6陣 117名	フィリピン	勤労青年Ⅱ(農業系)	23	青年海外協力協会	秋田
	〃	テーマA	19	日本国際生活体験協会	山梨
	タイ	農村青年	25	国際協力サービス・センター	鳥取
	〃	テーマB	20	日本青年団協議会	富山
9月12日～10月8日	PNG	教員	20	日本国際生活体験協会	大分
7陣 74名	〃	青年指導者	10	日本ユースホステル協会	北海道
	フィジー	公務員	12	世界青少年交流協会	新潟
	太平洋混成	公務員	22	国際交流サービス協会	栃木
	〃	教員	10	日本ユネスコ協会連盟	熊本
10月1日～10月31日	ブルネイ	テーマA	9	日本経済青年協議会	岡山
8陣 94名	インドネシア	農村青年	20	全国農村青少年教育振興会	徳島
	〃	学生	20	日本友愛青年協会	広島
	マレイシア	教員	20	日本ユースホステル協会	新潟
	〃	テーマA(公務員)	25	世界青少年交流協会	長崎
10月17日～11月12日	バングラデシュ	教員	20	日本ユネスコ協会連盟	青森
9陣 100名	ブータン・ネパール	教員	15	青年海外協力協会	愛媛
	インド	教員	30	世界青少年交流協会	北海道
	モルディヴ・スリランカ	教員	15	ユースワーカー能力開発協会	宮崎
	パキスタン	教員	20	国際交流サービス協会	山口
11月5日～12月5日	中国	総団	4		
10陣 100名	〃	公務員	22	国際交流サービス協会	沖縄
	〃	青年指導者	25	日本ユネスコ協会連盟	鳥取
	〃	経済青年	25	日本経済青年協議会	福岡
	〃	教員	24	青年海外協力協会	青森
11月19日～12月19日	中国	地域産業技術実務者	25	日本ユースホステル協会	岐阜
11陣 100名	〃	産業基盤整備実務者	25	青少年育成国民会議	島根
	〃	経済・貿易実務者	25	ユースワーカー能力開発協会	大阪
	〃	文化・教育関係実務者	25	世界青少年交流協会	香川
合計	ASEAN 6カ国(786) 太平洋諸国(74)			58グループ	
	中国(200) 韓国(98) 南西アジア(100)			1258名	

テーマA：環境問題　テーマB：社会福祉

6. 青年招へい事業実施協力団体等一覧

㈳青少年育成国民会議 (National Assembly for Youth Development-NAYD-)
〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター
TEL3460-4151 FAX3460-1603

㈶世界青少年交流協会 (The World Youth Visit Exchange Association-WYVEA-)
〒111 台東区浅草橋1-7-2 岩崎ビル
TEL5820-0791 FAX5820-0796

㈳日本国際生活体験協会 (Japanese Association of The Experiment in International Living-EIL-)
〒102 千代田区麹町4-5 橘ビル6階
TEL3261-3451 FAX3261-9148

㈳全国農村青少年教育振興会 (The Rural Youth Education Development Association)
〒162 新宿区新小川町4-19 末ビル3階
TEL3235-7461 FAX3235-7462

㈳日本経済青年協議会 (Junior Executive Council of Japan-JEC-)
〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター
TEL3469-2381 FAX3481-5726

㈳勤労厚生協会 (The Working Youth Welfare Association)
〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター
TEL3469-6421 FAX3469-6422

㈶ユースワーカー能力開発協会 (Development Association for Youth-DAY-)
〒105 港区新橋1-1-1 日比谷ビル6階
TEL3508-2048 FAX3503-2535

㈳国際交流サービス協会 (International Hospitality and Conference Service Association-IHCSA-)
〒100 千代田区霞ヶ関2-2-1 外務省第一別館
TEL3580-1621 FAX3580-1682

㈳青年海外協力協会 (Japan Overseas Cooperative Association-JOCA-)
〒106 港区南麻布5-10-24 第2佐野ビル7階
TEL3446-3651 FAX3446-3652

日本青年団協議会 (Japan Seinendan Council)
〒160 新宿区霞ヶ丘町15 日本青年館2階
TEL3475-2491 FAX3475-0668

㈳日本ユネスコ協会連盟 (National Federation of UNESCO Associations in Japan)
〒163 新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル38階
TEL3340-3921 FAX3340-3928

㈳日本ユース・ホステル協会 (Japan Youth Hostels, Inc.)
〒162 新宿区市谷砂土原町1-2 保健会館
TEL3269-5831 FAX3235-0629
㈳日本友愛青年協会 (Yuai Youth Association)
〒112 文京区音羽1-7-1
TEL3941-2801,1888 FAX3944-2550
㈳国際協力サービス・センター (International Cooperation Service Center-ICSC-)
本 部
〒162 新宿区市谷本村町42 経済協力センタービル別館
TEL3355-6441 FAX3355-6448
国際交流部
〒160 新宿区片町6-8 ハッシービル3F
TEL3355-6491～2 FAX3355-2929
早稲田大学国際交流センター (Waseda University International Center)
〒169 新宿区西早稲田1-6-1
TEL3203-7747
日本武道館 (Nippon Budokan)
〒102 千代田区北の丸公園2-3
TEL3216-5137

대한민국 청년 초청 사업

머 리 말

「대한민국청년 초청사업」은 1987년부터 5개년 계획으로 개시되었습니다.

금년도는 근로청년, 학생, 교원 및 청년지도자의 4그룹 98명을 받아들여 무사히 마칠 수가 있었습니다. 이 5년간에 초청한 한국청년은 496명에 달하며, 참가국 청년과 일본측 청년과의 우정은 귀국후에도 서신교환 등으로 인하여 더욱 깊어지고 있습니다. 일본청년이 한국청년을 방문하는 등의 움직임도 활발화되고 있다는 이야기를 듣고, 본 계획이 한일간의 우호·친선의 일단을 연다는 것을 기쁘게 생각하고 있습니다.

본 보고서는 초청청년의 대표, 합숙세미나에 참가한 일본청년 및 홈스테이를 맡아 주신 전국가정의 여러분이 보내온 감상문을 중심으로 초청청년의 1개월간의 체재기록을 엮은 것입니다. 본 사업의 실시에 있어서는 감상문을 소개해 주신 여러분을 비롯하여, 많은 분들의 도움을 받았습니다. 진심으로 감사의 말씀을 올립니다. 여러분들에게 본 보고서가 추억의 실마리가 되고, 또한 참가자의 체험을 보다 많은 분들과 나누어 가질 수 있으시길 바랍니다.

마지막으로, 본 계획의 실시에 깊은 이해와 협조를 해 주신 관계자 여러분께 진심으로 감사의 말씀을 드리며, 일본과 한국과의 우정이 더욱 더 깊이 맺어지기를 기원하며, 계속 지원해 주실 것을 부탁드립니다.

1992년 3월

국제협력사업단
연수사업부

부장 스와 료
(諏訪 龍)

차 례

머리말

1. 대한민국 청년 초청 사업

(1) 사업의 개요 ····· 51

(2) 실시협력단체와 실시현 ····· 53

2. 초청 청년 감상문 ····· 55

3. 합숙세미나 참가 일본청년의 말 ····· 64

4. 홈스테이 가정이 느낀 인상 ····· 73

〈실적자료〉

1. 서울창구기관 (서울프로그램실시기관) ····· 80

2. 서울 프로그램 실시일정 ····· 80

3. 실시일정 ····· 81

4. 대한민국 청년초청사업 실적 일람표 ····· 85

5. 1991년도 청년초청사업 실적 일람표 ····· 86

6. 관련 청소년 단체 주소록 ····· 87

〈초청 청년 명부〉 ····· 89

1. 대한민국 청년 초청 사업

(1) 사업의 개요

1) 목적

21세기를 향하여, 한국과 일본의 우호와 협력관계를 보다 확고하고도 알찬 관계로 하기위해, 미래의 국가 건설을 담당하게 될 한국청년을 일본에 초청하여, 일본의 동세대청년들과의 교류를 통해 상호이해를 돈독히하고 진실한 우정과 신뢰를 배양하는 것을 목적으로 한다.

2) 실시방법

①초청인원수

1991년도는 100명의 청년을 동시기에 초청한다.

②초청대상자

아래와 같은 분야에 있어서 지도적 입장에 있는 18~35세전후의 청년.

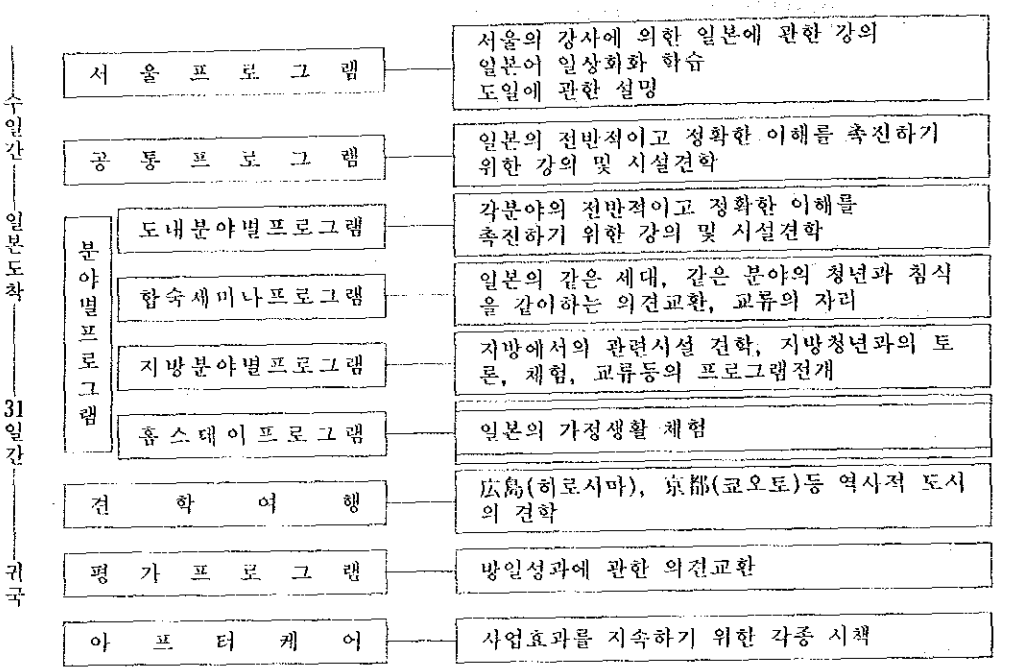
(각그룹의 리더, 부리더는 제외한다)

①청년지도자	20명
②교원	20명
③근로청년	30명
④학생	30명

③초청기간 및 시기

초청기간은 7월9일~8월8일까지 31일간으로 하고, 출발전에 수일간의 서울프로그램을 실시한다.

3) 프로그램개요



4) 인수체제

본 계획을 원활히 실시하기 위해 다음의 두 위원회를 설치한다.

①関係省庁調整連絡会議 (관계기관 조정연락회의)

(i) 임무 : 본 계획의 실시 및 운영에 관계되는 기본적 사항에 관한 협의.

(ii) 구성멤버 :

外務省経済協力局技術協力課 (외무성 경제협력국 기술협력과)
아세아局地域政策課 (아세아국 지역정책과)
大臣官房文化交流部文化第二課 (장관 官房(간보우)문화교류부 문화제 2 과)
総務庁青少年対策本部 (총무청 청소년대책본부)
文部省学術国際局国際企画課教育文化交流室 (문부성 학술국제국 국제기획과 교육문화 교류실)
農林水産省経済局国際部国際協力課 (농림수산성 경제국 국제부 국제협력과)
労働省大臣官房国際労働課 (노동성 장관官房(간보우)국제노동과)
自治省大臣官房企画室 (자치성 장관 官房(간보우)기획실)
国際協力事業団 (국제협력사업단)

②実行連絡調整委員会 (실행연락조정위원회)

(i) 임무 : 실행계획의 운영, 분야별 프로그램의 실시 및 각 프로그램간의 연대에 관해 협의하고, 프로그램실시상의 문제에 관해 국제협력사업단에 조언.

(ii) 구성멤버 : 관계성, 청에서 추천된 민간의 실시협력단체.

(社) 青少年育成国民会議 ((사) 청소년 육성 국민회의)
(財) 世界青少年交流協会 ((재) 세계 청소년 교류협회)
(社) 日本国際生活体験協会 ((사) 일본 국제 생활 체험협회)
(社) 全国農村青少年教育振興会 ((사) 전국 농촌 청소년 교육진흥회)
(社) 日本経済青年協議会 ((사) 일본 경제 청년협의회)
(社) 勤労厚生協会 ((사) 근로후생협회)
(財) 유스워커能力開発協会 ((재) 유스워커 능력 개발협회)
(社) 国際交流서비스協会 ((사) 국제 교류 서비스협회)
(社) 青年海外協力協会 ((사) 청년 해외 협력협회)
日本青年団協議会 (일본 청년단 협의회)
(社) 日本유네스코協会連盟 ((사) 일본 유네스코 협회연맹)
(財) 日本유스 호스텔協会 ((재) 일본 유스 호스텔 협회)
(財) 国際協力서비스 센터 ((재) 국제 협력서비스 센터)

5) 실시운영분담

	프로그램 감리	프로그램 운영		식사, 숙소의 수배
		연락조정	운영	
현지프로그램	国際協力事業団	国際協力事業団 (国際協力 서비스 센터)	각국실시기관 (재대한민국일본국 대사관)	각국실시기관 (재대한민국일본국 대사관)
공통프로그램 (도 내)		国際協力事業団 国際協力서비스 센터	国際協力서비스 센터	国際協力서비스 센터
도내분야별 프로그램 (도 내)		실시협력단체	실시협력단체	실시협력단체
합숙세미나 프로그램				
지방분야별 프로그램 (홈스테이를 포함)		실시협력단체 지방협력단체 (国際協力事業団 국내지부)	지방협력단체 (国際協力事業団 국내지부)	지방협력단체
견학여행 (히로시마, 교오토등)		실시협력단체	실시협력단체	실시협력단체
평가프로그램 (도 내)		国際協力事業団	国際協力서비스 센터	国際協力서비스 센터

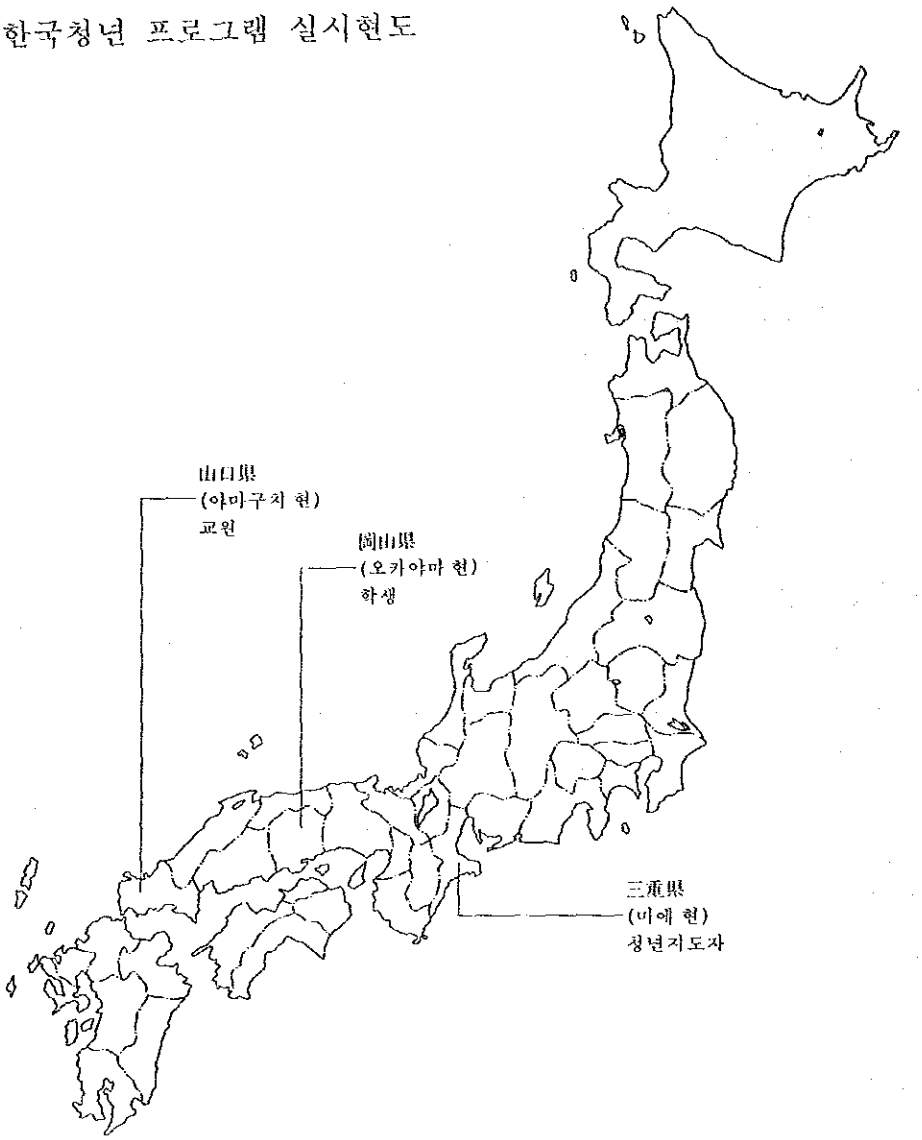
(주) 지방분야별 프로그램은 지방공공단체의 지도와 협력을 얻어 실시한다.

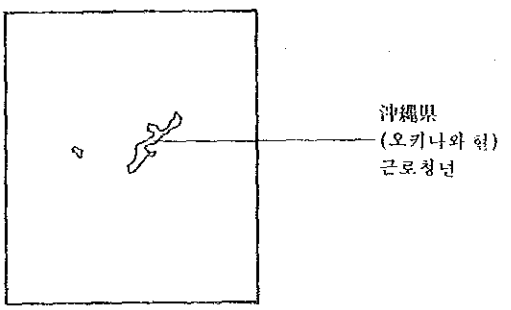
(2) 실시협력단체와 실시현

분야명	인수	실시협력단체	실시현
청년지도자	19	青少年育成国民会議	三重
교원	20	日本유네스코協会連盟	山口
근로청년	28	勤労厚生協会	沖縄
학생	31	世界青少年交流協会	岡山

*공통프로그램에 관하여는 国際協力서비스 센터가 전그룹에 대해 실시한다.

한국청년 프로그램 실시현도





2. 초청 청년 감상문

감상문

구 병호(具 炳鎬)
청년지도자그룹

서울을 떠나오며 日本에 대한 호기심과 처음 가 보는 外国에 대한 두려움이 겹쳐지면서 日本에서의 日程이 시작되었다.

JICA측의 따뜻한 배려와 코디네이터들의 일사불란한 行動들이 이설픈 外国生活을 적응해야 하는 나에게는 큰 도움이 되어 다행이었다.

그러나 外国이라고 하기에는 너무나도 낯설지 않게 느껴지는 거리의 사람들, 건물들, 풍경들 때문에 가끔 착각에 빠지는 일도 있었기에 절로 웃음이 나오기도 했다.

막연히 알고 있었던 日本과 日本人, 그리고 日本文化에 대하여 조금 더 알게 되었지만 확실하게 알고 가는 것은 아닌듯 싶다. 教授들의 講義와 여러곳의 見学·訪問, 合宿세미나에서의 日本친구들, HOME STAY의 家族분들을 통하여 日本人들의 親切함과 徹底함을 알게 되었으며 본받을 만한 것이라고 생각한다.

特히, 地方프로그램을 進行하는 三重県의 青少年育成国民会議事務局의 치밀한 計劃日程과 推進力은 가히 놀라움을 금치 못하였다.

처음 맞이하는 韓国人에 대하여 中央프로그램 못지 않게 熱과 誠을 다하는 모습은 숙연하기까지 하였다.

地方프로그램에서 가장 재미있었던 日程은 역시 HOME STAY였다. 처음에는 말이 통하지 않을 줄 알고 걱정을 많이 했지만 조금 배운 日本語와 英語, 漢字, 그리고 만국 공통어인 제스처를 모두 동원하여 사용하다 보니 만족하지는 않지만 그런대로 전달되는것 같아 다행스러웠다.

일본가정생활에 익숙하지 않은 한국인에게 불편하지 않도록 여러가지 많은 배려와 자세한 설명을 해 주느라 애쓰는 家族들의 모습에서 나도 모르게 마음이 활짝 열려져 있는 것을 느끼게 되었다.

다만, 한가지 아쉽고 서글픈 일은 地方프로그램을 마치고 나서의 日程인 広島에서의 韓国人原爆犠牲者慰霊碑가 平和公園안에 建立되지 못하고 길모퉁이 한구석에서 천대받고 있다는 점이었다. 물론 規則이나 方針에 의해서라고는 하지만 韓国人인 내가 보는 입장은 마음이 착잡하기 그지 없었다.

이곳에 와서 지금까지 느껴오던 日本에 대한 좋았던 감정이 半減되어지는 느낌이 되는 것 같았다.

어쨌든 한달이라는 기간이 지루하기도 했지만 돌이켜 보면 아주 貴重한 시간이었다.

韓国에 돌아가더라도 이곳에서의 生活을 기억해 가며 좋은점은 열심히 본받고, 나쁜점은 他山之石의 거울로 삼아 생활하고자 다짐한다.

그동안 우리 指導者班을 물심양면으로 보살피주신 JICA직원들과 코디네이터분들, 三重県国民会議직원들, 홈 스테이의 家族분들 모두에게 진심으로 감사를 드리며 좋은 기억만을 간직하고자 한다.

그리고 韓日青少年交流가 보다 더 활기있게 推進되어 양국의 理解増進에 보탬이 되기를 바라는 마음이다.

日本訪問 한달

박 미옥(朴 美玉)
청년거도자그룹

日本。어디서 부터 表現해야 할까?

처음 나리타 공항에 내려서 우리반 일행의 수줍음은 낯설은 이국땅의 공중전화카드 구입에서 부터 시작되었다.

쭈뼛 쭈뼛 전화카드 판매기에 하나, 둘, 모여들어 천엔짜리 지폐를 넣고 사던 일이 지금도 눈에 생생하다. 어떻게 한달을 보낼까? 하는 걱정과 호기심은 그때 그때 타이트한 일정에 밀려 지루함 없는 십여일을 보내고, 전혀 다른 개성을 지닌 저마다 뛰어난 사람들의 집단은 쉽지만은 않았던 또 다른 인간관계의 한 면을 배울 수 있었던 계기가 되기도 하였다. 지방 구석구석까지 과연 경제대국답게 골고루 잘 정돈되고 발달되어 있던 지방도시의 모습은 비교적 시골에 속한다고 보여지는 미에현에서의 도시규모와 제반적 시설自治的 管理 等에서도 엿볼수 엿었으며, 特히 오다이죠에서의 合宿세미나 期間들은 우리 班員들 모두에게 상당한 인상과 아쉬움의 이미지를 남겼던 소중한 시간이기도 하였다. 오다이죠에서 맺은 日本青年팀들과의 인연은 지방 program담당지역인 미에현에서의 모든 일정을 한결 부드럽고 친밀하게 마음으로 이어지는 따뜻한 부분들로 만들어 주는 주요 요소가 되었으며, 그 미에현을 떠나오던 날 아침, 떠나가는 열차를 따라 사력을 다해 뒤쫓아 오며 이별의 아쉬운 몸짓을 보였던 우찌야마상의 모습은 아직도 생생하며, 그의 그 동안 애써주었던 모든 고마움을 이 紙面을 통해서 진정 감사하다는 表現을 하고 싶다.

無言의 아픔을 지닌 도시"히로시마"우리 先祖들의 당당한 歷史的 有物이 깃들어 있던 "나라", 그리고 日本歷史의 도시 "교오토" 등이 관광들은 우리단원 모두가 좀 불편해 했던 일본 특유의 도시락 식사 조차도 매우 인상적인 것이었다고 생각된다.

시간은 흐르고 이제 귀국준비를 하며 되돌이 본 일본방문 한달이 우리 방문단 일행 모두의 기억속에 개개인 고유의 감정이 믹스된 독특한 추억으로서 영원히 간직되리라고 확신하며, 어쩌면 먼 훗날 한번쯤은 다시 보고싶은 얼굴들로서 기억되리라고 믿는다.

끝으로 이 프로그램 진행을 위해 힘쓰셨던 모든 분들에게 전심으로 격려와 발전을 위한 감사를 드리는 바이다.

일본 체험기

신 영숙(辛 永淑)
교원그룹

저는 이 연수에 참가하면서 일본에 대해서 좀 더 잘 알수 있는 기회가 생긴 것이 무척 기뻤습니다. 그러나 한편으로는 언어가 잘 통하지 않는 것에 대한 두려움도 있었습니다.

그러나 일본에 도착한 후 여러가지를 체험하고, 일본인과 교류하면서 언어보다는 마음이 더 중요하다는 것을 느끼게 되었습니다. 일본어 체험시간에는 서로 언어는 잘 통하지 않았지만 정말 일본문화를 쉽게 접할 수 있도록 도와주시고 곳곳을 안내해 주신 타나까氏 모녀 덕분에 즐거운 시간을 가질 수 있었으며, 나가노에서의 합숙 세미나는 같은 교사들 끼리 인권문제를 가지고 진지하게 대화를 나눌 수 있었던 점이 무척 인상에 남았습니다.

또한 야마구찌시에서의 유네스코관계자 여러분들의 진심어린 환영과 호의는 정말 가슴 가득히 다가왔습니다. 진정 열린 마음으로 우리들을 맞이 해 주셨기 때문입니다. 특히 히까리市에서 내가 만난 일본인들은 정말 친절하고 상냥하고

예의바르며 시간과 약속을 잘 지키는 분들이었습니다. 그리고 우리가 가장 걱정하면서도 기대했던 홈스테이는 일본인을 알 수 있는 좋은 기회였고 무척 보람있는 시간 이었습니다. 저는 히까리 고등학교 교사인 山本선생님 댁에서 머물렀는데 같은 교사이기 때문에 공감대도 쉽게 형성되었으며, 교육의 현실 미래등에 대해 밤이 늦은 줄도 모르게 열심히 토론 했으며, 가족을 위해 헌신적이고, 부지런하며 검소한 생활을 해 가시는 부인과의 가정교육에 대한 여러가지 이야기도 무척 즐겁고 보람있었습니다.

그리고 히로시마의 평화공원에서는 정말 평화에 대한 염원을 가슴깊이 새기며 일본인은 물론이고 전세계인들이 평화를 기원하는 마음을 영원히 간직해 주었으면 하는 바램을 가졌습니다. 또한 일본의 전통 문화 역사의 도시인 교토, 나라 야마구찌등 여러곳에서 일본의 문화속에 존재하는 한국의 문화를 쉽게 발견할 수 있었습니다. 일본과 한국의 과거 오랫동안의 역사적 관계를 무언으로 나타내주고 있었던 것입니다.

일본이라는 나라는 먼 지구상의 한 나라가 아니라, 우리가 원하던 원하지 않던 긴밀한 역사적 관계를 맺어 왔고 또 맺어 갈 수 밖에 없는 가깝고도 가까운 나라라는 것을 가슴깊이 실감하게 되었습니다. 때문에 이번과 같은 교류의 기회가 얼마나 소중했는가 하는 점도 깨달았습니다. 앞으로도 그동안 싹튼 교류의 마음이 계속되고 발전되기를 빌며 이런 기회가 보다 많은 교사들에게 주어졌으면 하는 바램을 가져봅니다.

그동안 우리들을 따뜻하게 맞이해주시고 친절하게 일본을 알 수 있도록 도와주신 JICA관계자 여러분, 유네스코관계자 여러분, 홈스테이 가족 여러분, 코오디네이터 여러분, 그외 모든 분들께 진심으로 감사의 말씀을 드립니다.

來日은 우리 모두의 것

양 대원(梁 大源)
교원그룹

"가깝고도 먼 나라."

이 말은 우리가 흔히 日本을 말할때에 쓰는 말이다. 아마도 이 말 속에는 상당한 뉘앙스가 내포되어 있는 듯하다. 나도 이번 日本研修를 다녀오기 前까지는 이 말 그대로의 편협한 思考만을 갖고 있었다.

研修동안에 日本에 対하여 多角的으로 보고, 듣고, 피부로 느끼는 여러 체험을 통하여 그 말의 意味를 냉철하게 판단해 보겠다는 나름 대로의 目的下에 日本에서의 生活을 하게되었다.

정말 서울에서 東京까지는 비행기로 2時間이 채 걸리지 않는 咫尺之間이었다. 공항에 도착하여 入国수속을 받을 때에는 다른 언어로 인한 異質感을 느꼈지만, 우리와의 歴史的 理解관계를 떠나서 現在의 日本人들의 친근함은 시간의 흐름 속에 더욱 피부에 와 닿았다.

특히, HOME STAY를 통하여 처음에는 너무나 생소한 풍습때문에—집안의 부인들이 거실에 나와서 손님에게 큰 절을 무릎을 꿇고 한다든가, 오신 손님에게 우선 목욕을 권한다든가, 식사시에 음식이 개인 앞으로 각기 놓여진다든가—어리둥절하기도 하였으나 그것도 잠시 뿐, 수년전 헤어진 형제를 상봉한 듯, 두려움도 사라지고 오히려 온 집안 식구들의 온정어린 친절에 내 가정안에서 편한 휴식을 취하는 것으로 착각이 될정도의 친근함을 갖게되어 닫힌 마음을 안고 간 우리로서는 마음을 활짝 열지않을 수 없는 매우 의미 깊고, 돈독한 우의를 다지는 기회가 되었던 것이다.

중국 옛 말에 "귤이 淮水를 건너면 탱자가 된다." 라는 말이 있다. 그러나, 이 말은 日本人들에게는 反対의 意味를 부여하고 싶어진다. 그들

은 오히려 탱자로 만드는 것이 아니라, 크고 맛있는 좋은 귤로 만들 줄 알았고, 앞으로도 만들려하고 있는 듯하다. 博物館 見学에서 볼 수 있는 遺物만이 아니라, 寺刹의 지붕線의 흐름등은 우리나라에서도 쉽게 찾아볼 수 있지만, 나름대로의 독특한 마무리를 해놓은 모양이나 城의 방어를 위한 湖水, 城에 통하는 미로의 길등은 그들의 創意性을 볼 수 있어서 歷史의 흐름 속에서 自己들만이 갖는 새로운 것을 創造하려는 意志가 있었음을 알 수 있었다.

合宿세미나에서 日本의 教師들은 우리가 제기한 여러 문제들에 대해서도 자기 각자의 책임인양 문제 해결을 위해 진지하게, 정성을 다하여 자료를 찾고 분석하며 좋은 안이 추출될 때까지 고민하고 연구하는 모습은 매우 호감이 갔으며, 合理的인 그들의 思考에 감탄하지 않을 수 없었다. 국제간의 共同의 관심사—청소년의 의식문제, 환경 오염문제, 人權의 問題—에서도 우리와 共同의 理解를 갖고 있음을 알았고, 밤을 새운 討論에서 함께 우의를 다지며 다가올 21세기의 主役이라는 사명감도 함께 인식하게 되었다.

이제, 우리는 1개월여 동안 日本에 対한 많은 체험을 하였다. 조용히 마음을 침잠하고 냉철하게 다가올 미래를 머리에 그려보면서 우리의 것은 견지하면서도 필요하다면 서로 포용력있게 인정하고 받아들여 새로운 것으로 昇化 発展시킬 수 있는 勇気와 努力이 必要하지 않을까 생각한다.

共存共栄하는 "가깝고도 가까운 나라"가 되기를 바라는 마음에서이다.

일본에서 한달간의 생활을 마치며

홍 남표(洪 南杓)
근로청년그룹

민지 21세기를 향한 우정계획에 직간접적으로 수고하여 주신 일본측 관계자 모든 분들께 감사드립니다.

약 한달간의 일본체류를 통해 직접 일본을 체험함으로써 인상깊게 느껴졌던 것을 기술코자 한다.

첫째, 일본인들의 철저함이다. 오후 5시에 끝나기로 되어 있었던 일본이 체험실습시, 우리팀은 일본학생과 동행하면서 동경내에서 지냈었는데 명치신궁을 함께 둘러보고 나왔을 때 오후 4시정도의 어중간한 시간이었기 때문에 동행한 일본학생에게 이제 돌아가도 좋다고 권유했지만, 일본학생들은 자기들에게 부여된 임무수행시간이 5시이기 때문에 그럴 수는 없다고 하면서 우리들이 묵고 있는 이께부꾸로근처에 있는 신싸인 빌딩까지 다시 안내하면서 부여된 시간까지 완벽히 자기 임무를 수행하는 데서 철저함을 발견할 수 있었고, 또한 우리 근로청년반이 교토에서의 일정을 마치고 동경으로 가는 열차를 갈아타기위해 플랫트홈에서 기다리고 있었을 때, 그동안 우리팀이 타고 다녔던 버스의 안내양이 이마에 땀방울이 맺힌 채, 버스안에 놓고 간 물건이라면서 우리 일행중 한 사람의 명찰을 갖고 헐레벌떡달려 왔을 때, 日本人들의 자기 직업에 대한 철저함을 발견할 수 있었다. 이러한 일본인들의 철저함이 세계 경제대국이 될 수 있게 하는 원동력이 아닌가하는 생각을 갖게 되었다.

둘째는 일본인들의 검소함이다. 일본이 세계 경제대국이라는 이미지에 걸맞지 않을 정도로 일본인들은 검소함이 생활에 배여 있었다. 식사에서, 옷차림에서, 그리고 동경내에서 부녀자들의 자전거 통행등 많은 곳에서 일본인의 검소함

을 발전할 수 있었다. 국민 각 개인의 생활은 검소한 반면, 사회간접자본등 사회 전체를 위한 투자가 많지 만 크게 국민들로부터 불평이 없는 것을 보고 사회전체 이익을 먼저 생각하는 민족이 아닌가 하는 생각을 갖었다.

셋째 친절함이다. 내가 만난 거의 모든 일본인들로부터 친절함을 체감했다. 길을 물을 때라던지 또는 Shopping할때 자기 가게에 없는 물건이 있는 가게를 상세히 알려 주었을 때 등 많은 곳에서 친절함을 느낄 수 있었다. 친절과는 좀 다르지만 오키나와에서 생활하면서는 두터운 人情같은 것을 느낄 수 있었고 이런 민족이 어떻게 세계대전을 일으켰는가 하는 생각도 들었다. 앞으로 평화를 사랑하는 日本이 해야 할 일들이 상당히 많을 것 같았다.

이상에서 간략하게 일본인들로부터 받은 인상을 기술했지만 그것 외에도 정리되지 않은 좋은 인상들이 많을 정도로 이번 프로그램을 통해 日本을 다시 생각할 수 있어 이번 기회를 개인적으로 매우 값지게 생각한다. 앞으로도 민간차원의 交流를 많이 하는 것이 日本을 올바르게 이해하는 첩경이라 생각하고 이러한 올바른 이해를 바탕으로 한·일관계를 재정립하여 한·일간의 협력관계가 더욱 발전하길 기대한다.

감상문

김선태(金 善泰)
근로청년그룹

21세기를 향한 한일간 청년교류에서 일본을 좀 더 깊이 알고 몸소 체험하는 이번 계획에 참여한 나로서는 처음부터 무엇을 어떻게 해야 할 것인가 한국을 출국하기 전부터 많은 고민을 했었다. 특히 일본말에 대해서는 전혀 모르는 입장에서 사전교육을 통해 어설픈 말 몇마디로 일본이라는 나라에 도착했을 때, 부딪치는것 마다 생소하고 말도 통하지 않는 타국땅에서 내인생은 다시한번 시작되는 느낌으로 이 한달이란 여정에 오르게 된다.

특히 일본의 체험시간에는 단 한마디도 하지 못하고 하루종일 따라 다니던일, 쇼핑에서는 가격을 묻지못해 손가락질 하던 일 등은 기억에서 영원히 지워지지 않을 것이다.

또한 오끼나와에서는 제일 걱정했던 홈스테이가 있었기에 느낀점을 몇자 적어보려 한다. 내가 (스테 집에) 배정받은 집은 아사기 갠이라는 평범한 회사원 청년의 집에 아내와 2살된 딸 그리고 짚프(미국인)라는 친구등 4식구가 살고 있는 집이다. 호텔에서 집까지는 1시간 소요되는 거리이고 가정은 넉넉한 생활이 아니었다. 그러한 집에 가족의 일원이 되어 어색한 분위기속에서 일정이 시작되었다. 호텔을 출발하기 전부터 태풍이 몰려와 기분까지 고조되어 있는 나를 마사기상은 분위기를 부드럽게 하기 위해서 애쓰고, 나는 그 분위속에 젖어 들어 하루를 보냈다. 다음날 아침 비가 그치면 카누를 타기로 했던 계획은 무산되고 오전에는 드라이브 오후에는 마사기상의 음악하는 친구의 집을 방문했다. 역시 어색한 기분에 집을 들어섰다. 혼자 앉아 기타를 치고 있던 친구는 반갑게 맞아 주었고 일본어를 모르는 나를 상관하지 않고 몇마디 이야기를 나누더니 뜻밖에 한국말로 인사를 하는게 아닌가? 이안이 벙벙해진 나는 말을 이어가지 못한채 있는데 자기의 소개를 간단히 해 주었다. 3살때 소아마비인 다리를 고치려고 어머니와 함께 일본에 와서 지금까지 살고 있고, 숫한 고생속에 이제는 음악을 하면서 미군기지에서 활동하고 있다는 그는 39살에 시력도 좋지 못한 어떻게 보면 불쌍한 사람이었다. 그들과 저녁때까지 이야기 하다 집으로 돌아 왔다. 집에는 푸짐한 음식을 준비해서 통역을 동반한 멋진 파티가 베풀어지면서 어색한 분위기는 완전히 사라지고 오랜 세월 같이 지낸 친구같이 되었다.

그렇게 새벽 3시쯤 되어서 마무리를 짓기 위해 마사기상은 나에게 친구하자는 제의를 했고 나도 수락했다. 그래서 마사기상은 자기의 이름을 갠으로 나는 선태로 부르기로 하고 다음날 일정에 대해서 이야기 하다가 미안하다는 말을 되풀이 했다. 이유는 자기 같이 가난한 집에 초대해서 라는 것이다. 자기가 아니었으면 부잣집으로 갈 수 있었을텐데 하면서…….

다음날 9시에 기상, 아침을 간단히 하고 약속대로 갠의 아내가 해산날이라 짐을 가지고 산부인과로 향했다. 10시에 도착 13시에야 딸이라는 간호원의 말을 전해 들었고, 갠은 아들을 원했던지 서운해 했다. 그러나 내심 웃는표정을 짓기 위해 부자연스런 미소를 지으며 울고 있는 아내를 위로 해 주었다. 오까나와도 아들을 선호하는가 보다. 14시에야 병원을 나와 갠의 아버지가 근무 하시는 오까나와 기상청으로 향했다. 반갑게 맞이해 주신 아버지의 안내속에 레이다, 컴퓨터등을 견학하고 호텔로 돌아왔다. 이렇게 넉넉치 못한 살림속에서 친절과 봉사로 즐겁고 보람있게 베풀어준 갠가족에게 고맙다는 인사를 지면을 통해서라도 해야겠다. 그리고 갠같은 친구를 갖게 해주시고 자리를 만들어주신 자이카에게 감사를 드립니다. 부디 무궁한 발전 있으시길 기원 합니다.

다시한번 태어나게 해 준 한달…

양 영신(梁 榮伸)
근로청년그룹

서울을 출발하기 전까지만 해도 나에게 있어서 한달간 일본 연수는 어렵게만 생각되었다. 98명 중 길고 지루하게 느낀분이 계실지는 모르겠지만 우리반, 아니 나에게는 짧고도 재미 있었던 한달이었다. 이제 일본에서의 며칠을 앞둔 이 싯점에서 아쉬움이 많이 남는다. 다른분들보다 하나라도 더 보고 배우려고 노력했고, 코디네이터의 설명 놓치지않을려고 기록도 해 보았지만 부족하기는 마찬가지다.

일주일 동안의 일본 역사 및 산업과 경제, 사회와 문화, 일본어 체험학습, 일본 청년과의 합숙세미나, Home Stay, 일본 청년과의 교류, 주요사찰 견학 및 공공기관 방문 등 다양한 Program이 있었는데, 일본어 체험학습에 있어서는 호텔에 같이와서 한복도 입혀주고 우리나라 소주 김치 라면등 조그마하게 한국식 파티를 열고 노래도 같이 부르며 모두들 한마음이 되었다. 사가미고 드림 센터에서 합숙세미나 또한 인상 깊었다. 스포츠 교류때, 각 조별로 배구를 했는데, 어느한조 흐트러짐없이 단결력이 대단했다. 마음과 마음이 통해서 우리 모두가 하나라는 걸 보여 주었다. 많은 Program중에서 Home Stay는 가장 좋은 추억이될 것이다. 설레이는 마음으로 오또상, 오까상, 스마꼬상 (Home Stay 하면서 일본의 부모님으로 모시기로 했다.)의 마중으로 현관에 들어서니, 한글로 "양영신 San 잘 오셨습니다. Miss Yang Young Shin Welcome.!!" 란 커다란 글씨가 나를 반겨줬다. 또한 한국에 계신 부모님께 Home Stay에 잘 도착했다고 안부전화 하라고 했다. 내 방은 2층이었는데 방에 들어서니 침대 위에 장미 다섯 송이가 꽃병에 예쁘게 꽂혀 있었고, Miss Yang Young Shin From Sumako라고 적힌 글씨가 나를 기쁘게 했다. 저녁 식사 준비를 하는데 오까상이 나와 스마꼬상 안데 간단한 것은 하라고 알려주셨다. 식사 시간에 전배와 함께 우리나라 김치도 맛있게 먹었다. 오까상과 함께 영사관을 방문하여 영사님 및 부 영사님께 인사 드렸다. 하나에서 열까지 신경을 많이 써 주셔서 감사하기보다는 미안했다. 언어 소통 문제는 있었지만 영어, 일어, 한문, 우리나라 말과 손짓, 발짓, 안되면 그림으로 그리고 마음을 열어 놓으니깐 모든게 해결 되었다. 오키나와는 제주도와 비슷한 점이 많아 외

국이라기 보다는 내고향에 온 기분이었다. 에메랄드빛 바다와 자연 환경은 다시 보고 싶다. Home Stay와 그 동안에 만난 많은 일본인을 대하면서 느낀것은 친절함 치밀한 계획, 자신이 힘들어도 상대편이 원하는데로 해 줄려는 희생 정신 등 내가 본받을 만한 점이었다. 우리나라와 일본과의 차이점을 나름대로 찾아보면, 우리나라 젊은 세대들은 과거와 현재 미래를 생각하는 반면, 일본 젊은 세대들은 과거는 생각 않고, 현재와 미래를 생각한다는 것이다. 부에 비해 검소하게 생활하고 자기 자신을 드러내지않고 감춘다는 것이다. 또한 외국문화를 받아 들이되, 새로운 것을 부과 하면서 전통을 지켜나가고 어려울 때 새로운 돌파구를 찾아 나선다는 것이다. 반면 나는 선진 문화를 받아 들이면서 우리의 전통 문화에 대해서 미 개척 분야를 개발, 계승 발전으로 전통을 이어나가야 하겠다는 생각이 들었다. 21세기를 위한 우정 계획에 참여하신 98명. 한 사람의 낙오자 없이 귀국하게 된 것을 일본인 모든 분들께 감사 드리고 싶습니다. 이 Program을 주최해 주신 JICA 및 오키나와 JICA 지방 지사, 각종 협력 단체, 그리고 코디네이터, Home Stay에 협력 해주신 모든분들께 진심으로 감사드리며, 한달 동안 일본에서의 감상문은 제가 좋았기에 저의 생각을 썼다는 것을 밝히고 싶습니다.

JICA 건배! 대한 건아 화이팅!

감상문

안 화진(安 和珍)
학생그룹

한·일 친선 교류 Program의 참가자로 선정된 것을 알았을때, 처음 내가 떠올린 일본에 대한 인상은 보편적인 한국인들의 생각과 다르지 않았다.

가깝고도 먼 나라, 과거에 우리나라를 침략했던 나라 어쩌면 이런 선입관을 가지고 일본에 왔는지도 모른다.

그러나 일본에서 하루 하루를 보내면서, 또 일본 대학생들과의 계속적인 만남을 통해, 나는 일본을 보는 새로운 시야를 갖게 되었다.

이번 Program중에서 가장 인상깊은 것은 합숙세미나의 모든 일정이 참가하는 대학생들의 자체적인 계획이라는 것이었다.

3박4일의 일정을 무사히 또 완벽하게 치루어내기 위해 하루에 2.3시간 정도 밖에 자지 못했다는 소리를 들었을때 일본의 저력이 바로 이런것이 아닌가 생각했다.

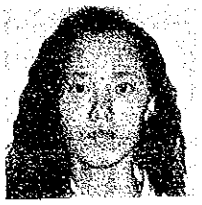
합숙세미나 기간동안 일본학생들과의 토론을 통해 현재 일본 젊은이들의 생각을 알게 된 것도 소중한 경험이었다.

지방분야별 Program은 오카야마현에서 이루어졌는데 구라시키의 전통축제인 "덴료 마쯔리"에 참가했던 것은, 일본의 각 지방이 각기의 독특한 축제를 가지고 있으며 그것를 통해 공동체 의식을 함양하고 있음을 체험적으로 알게 해주었다.

또한 구라시키에서의 민박을 통해 일본가정의 진솔한 생활 모습을 볼 수 있었고 한국과 많은 유사한 점을 발견하면서 일본이 결코 먼나라가 아니라 가까운 이웃임을 다시 한번 느꼈다. 이번 한·일 친선 교류 Program에 한달 간 참여하면서 JICA 관계자들과 코디네이터 여러분들, 그리고 구라시키 친구회 여러분, 일본 대학생들의 변함없는 성실한 태도, 끝까지 최선을 다 하는 모습에서 21세기의 일본의 미래를 읽을 수 있었으며, 일본과 21세기에 진정한 동반자 관계를 이어가기 위해서 역사에 대한 올바른 인식위에 좀 더 실력을 키워야겠다고 느꼈다.

이 한달은 내 인생에 있어 귀중한 밑거름이 될것이며 일본 대학생들과의 우정의 교류는 영원히 잊을 수 없을 것이다.

감상문



백 원선(白 媛善)
학생그룹

A.M.5:04, 이제 몇시간 뒤면 한달간의 일본생활이 끝이 난다. 아직도 이곳Metropolitan Hotel에는 우리와 같이 세미나를 했던 대학생들이 마지막 밤을 같이 보내고 있다.

처음에는 어색하기만 했던 그들이 이제는 더 이상 낯선 존재가 아닌 오랜 친구처럼 느껴진다.

체험적 일본어 학습, 대학 방문을 통해 알게 된 일본학생들과 합숙 세미나를 통해 일본 젊은 사람들의 생각을 듣고 우리 한국학생들도 그 나름대로 한국에 대해 알리려고 노력했다.

나는 많은 준비를 못해 과히 성실한 자세로 토론에 임하지 못했지만, 일본학생들이 많은 준비와 세세한 곳까지 신경을 쓰는데 무척 미안하고 고마웠다.

비록 말은 잘 통하지 않았지만, 서로 손짓, 발짓을 해가며 자신의 의사를 전달하는데, 상대방이 내가 말하려는 내용을 대강 이나마 알아 들었을때 그 기분! 역시 "젊음" 이라는 공통적인 요소 때문인지 우리들은 쉽게 친해질수 있었다.

세미나 기간에 같은 방을 썼었더라면 하는 아쉬움이 남지만 마지막날 Party 때 서로들 준비했던 연극 춤 음악등을 보여주며 촛불 행진을 했을때의 그 감동은 잊을 수 없을 것이다.

지방 프로그램에서 열심히 수고해 주셨던 구라시키의 「친구회」 여러분 home stay의 Akioka Shotaro 가족분들 내가 떠나는날 오까야마 역에 나오셔서 우셨던 SANAE 끝까지 나리따 공항에 배웅을 나오는 일본 학생들 모든 일본 분들의 따스한 친절에 감사하며.

축제에 참가했던 그외의 즐거운 추억들 언제까지 기억 할것이다. 나에게 이런 소중한 기회가 주어졌던 것을 감사하며 일본에서 많은 것 배우고 갑니다.

그럼 안녕! Tro Tro, Arigāto Gozaimas.

감상문

정 영석(鄭 暎錫)
학생그룹

세상에는 그 무엇과도 바꿀 수 없는 자신만의 귀중한 경험이나 추억이 있기 마련이다. 그리고 그것들은 종종 우연찮게 그리고 전혀 예상하지 못했던 곳에서 부터 시작되곤 한다. 내게 이러한 소중한 경험이 시작된 것은 7월 9일 동경을 향하는 비행기에 몸을 실으면서부터였다. JICA의 빈틈없는 계획과 일정 속에서 우리는 일본에 관한 강의와 회화 그리고 일본 학생들과의 합숙세미나 지방 견학의 많은 추억을 쌓았다.

모든 것이 돌이켜 생각하면 귀중하지 않은 것이 없지만 무엇 보다도 기억에 남는 것은 일본 학생들과 함께 했던 산중호에서의 합숙세미나와 민박이었다. 서로다른 언어와 가치관 속에서 서로 뗄 수 없는 역사적 관계를 가진 두민족 청년들의 만남은 서로를 이해하고 설득 시키면서 공통점을 찾기위해 애를 썼다. 서로가 알고자 그리고 말하고자 하는 것이 너무나도 많았지만 넘기 어려운 언어의 벽과 사고의 테두리는 서로를 안타깝게 했다.

그럼에도 불구하고 그들과 따뜻한 우정을 나눌 수 있었던 이유는 그들에게서 우리의 것과 다를 바 없는 순수한 마음과 뜨거운 열정을 느낄 수 있었기 때문이다. 나의 partner 였던 RICA-CHAN, 그리고 많은 친구들, 그들은 이전의 차가운 일본인, 겉과 속이 다른 일본인이라는 나의 통렬적 사고방식을 무너 뜨렸다. 물론, 3박 4일의 만남이 너무나 짧고 아쉬움만을 뒤로 한 채 끝나긴 했지만….

그러나 우리는 일본인을 느낄 수 있는 또하나의 귀중한 경험을 가질 수 있었다. 오까상, 오또상 그리고 시즈꼬와 구미꼬 두 귀여운 딸이 있던 가정에서의 민박이 그것 이었다. 특히, 시즈꼬와 구미꼬와 나누었던 많은 이야기들은 지금도 잊을 수 없다. 동경의 젊은이들에 비해 한국에 대해 아는 것이 많지 않았던 그들은 한국에 관한 나의 이야기에 신기해 했다. 너무나 한국을 모르는 일본인들이 많구나 하는 생각에 마음이 아프기도 했지만 그들 또한 뜨거운 마음을 가진 젊은이라는 점에서 함께 진솔한 대화를 나눌 수 있었던 것이 그 기쁨이었다. 너무 친절했던 그가정에서 이것이 일본인의 관습적인 행동이 아닐까 하는 생각도 해 보았지만 그들의 순수함과 따뜻함을 느꼈을때 나의 생각이 부족한 것이 었음을 깨닫게 되었다.

세계 경제 대국의 일본 그들은 세계의 부러움과 우려를 함께 받고 있다. 그러나 과연 우리가 그들에 대해 무엇을 알고 있었는가 반문해 볼때 우리의 무지함에 스스로 놀라지 않을 수 없었다. 그런 차에 내게 주어진 이 JICA의 초청 사업은 나의 무지를 자각 시키는 데 많은 도움과 경험을 제공해 준것이다. 별 자격 없는 나와 사랑하는 동료들, 진정으로 많은 추억과 경험이 있었으리라 생각한다.

끝으로 초청해준 JICA와 어머니처럼, 누나처럼 물심양면으로 정을 쏟아준 편순옥 그리고 에노모또 두 코디네이터 선생님께 진정으로 감사를 드리면서 함께한 친구들 그리고 같이한 많은 분들의 가슴속에 새로운 일본의 인식이 자리잡기를 바라면서 이 글을 맺는다.

3. 합숙세미나 참가 일본청년의 말

합숙세미나에 참가하고

오카다 조우지 (岡田 譲治)
교원

지금까지 한국과 일본사이의 문제에 대하여 책이나 영화, TV 등을 통하여 의식적으로 관심을 가져 왔고, 아들과 함께 두번이나 한국여행을 하는 등 나름대로 지식부족을 메워 온 셈이기는 했지만, 모르는 것을 알 수 있는 기회라고 하는 것은 아무리 많아도 기쁜 것이다. 이번의 합숙세미나는 바로 그런 것이었다. 7월 25일(토)~27일(월)의 3일간이기는 했지만 매우 귀중한 시간을 가질 수 있었다.

나는 갈 때 池袋의 호텔에서 버스에 동승했는데, 「안녕하십니까?」라고 말한 순간 여기서 부터 단숨에 한국어 일색이 되었다고 해도 지나친 말이 아니다. 이 후유증은 합숙종료 후에도 한동안 계속되었는데 너무나 기분좋은 것이었다. 작년에 중국청년그룹과의 합숙세미나에 처음 참가했던 적이 있는데, 이번에는 한국측과 일본측 모두 이상하게도 사양이나 지나친 조심 같은 것 없이 서로 충분한 교류를 할 수 있지 않았던가 싶은 나름대로의 생각이다.

또 일본인그룹도 개최지인 長野를 비롯 수도권 뿐만 아니라 大阪, 山口 등 전국 각지에서 참가하였기에 서로의 정보교환의 장소로도 되었던 점 또한 기뻤다.

「이웃으로서의 외국인을 생각한다」는 제목으로 재일한국인·조총련계 문제에 대해 강연하신 田中宏씨는 그 후에도 우리들 분과회에 참가하여 시간이 허락하는 한 많은 질문에 정중히 대답해 주었을 뿐만 아니라, 그밖에도 여러가지 이야기를 해 주었다. 서로의 나라사이가 순식간에 좁혀진 듯한 기분이었다. 다음날 보고를 들어 보았더니 각 분과회 모두 알찬 토론회가 되었던 것 같았다.

양측의 교량역할을 해주신 통역자를 비롯 기획·운영을 담당하신 유네스코직원 여러분께 감사하며, 이 합숙을 통하여 서로 알게된 한국청년과 앞으로도 교류를 깊여가고 싶다고 생각하고 있다. 「감사합니다」.

합숙세미나에 참가하고

사토우 에이지로우 (佐藤 英二郎)
교원

예상했던 일이기는 했지만, 학기말부터의 합숙은 역시 매우 힘든 것이었습니다. 하지만 지금 생각해도 아주 귀중한 체험이었다고 생각합니다. 분과회 등에서는 한일양국의 선생님들로부터 여러가지 시사하는 바를 깨달았습니다. 「밤의 交歡」등 즐거운 시간도 보낼 수 있었습니다. 통역자의 힘을 빌어서였었습니다만 "다다미" 방에서의 몸짓 손짓도 해가면서의 교류는 인상깊은 추억이었습니다. 담당자 여러분의 수고에는 정말로 숙연해집니다만, 저희들도 일본이해와 교류를 위해 도움이 되지 않았나 하는 생각입니다. 고목나무도…….

그러면 혹시 방향이 어긋났는지도 모르겠습니다만 몇가지 느낀 점을 적어 보겠습니다. 우선 일정에 여유가 없었다고 생각합니다. 일본측으로서도 음모하기 쉬운 일정은 아니었습니다.

다음으로 그에 비해 모두 함께 즐기는 시간을 충분히 할애했더라면 좋지 않았을까 하는 생각입니다. 처음에는 정해져 있는 형식처럼 될지라도, 그 뒤에 서로의 모습을 잘 알 수 있어 진정한 교류가 될 것으로 생각합니다. 예를 들면 환영파티가 끝난 후의 자연발생적이었던 交歡会 등은 매우 재미있었으며, 또한 공부가 되었습니다. 책이나 매스컴의 보도로는 얻을 수 없는 것을 대담하게 추구하면 어떨까요?

분과회의 진행방법과 인원에 대해서 입니다만, 화제가 표면적인 것으로 시종한 듯한 느낌입니다. 통계나 자료를 보면 알 수 있는 것을 질문하거나, 초·중학생의 의식 등과 같은 무의미한 보고를 하거나 하여 서로 의견이 맞지 않았습니다. 모두 함께 토론하기 위해서도 사전에 준비할 수 있는 것은 준비했어야 했습니다. 저희 고등학교에서 앙케이트조사를 했어도 좋았고, 한일양국 관심사의 대조를 사전에 좀더 했어도 좋았을 텐데. 분과회의 인원이 너무 많았다고도 생각합니다. 이는 보다 깊이있는 이야기가 되지 않았던 이유중의 하나라고 생각합니다.

마지막으로 한국분들이 어떤 인상을 받으셨는지 외교문서가 아닌 솔직한 느낌을 알고 싶습니다. 앞으로 제 자신을 위해서도.

합숙세미나 감상문

우에다 히로시 (上田 宏)
회사원

이번에 합숙세미나에 참가하여 귀중한 체험을 얻게 해주신데 대하여 대단히 감사드립니다. 이 세미나에 오기 전에는 현대의 한국인 젊은이들이 일본에 대하여 어떻게 생각하고 있는지가 매우 궁금했습니다. 여러가지 이야기를 나누던 중에, 역시 제 2 차세계대전의 흉유중이 남아있고, 한국의 젊은이들도 어른들로부터 「일본은 이런 가혹한 짓을 했단다. 아주 나쁜 놈들이다.」라고하는 일본인 관을 이어받고 있는 것 같아 쇼크였습니다. 제 2 차세계대전은 우리 할아버지 시대의 일이었는데 지금의 일본의 젊은세대에 대해서도 반일감정을 가지고 있다니 믿을 수 없었습니다.

그러나 시간이 흐름에 따라, 여러 사람들과 이야기를 해봤더니 「그런 감정을 세미나에 오기 전까지는 가지고 있었지만, 이번의 세미나를 통하여 현대의 일본 젊은이들은 한국의 젊은이 들과 거의 같은 생각을 가졌고, 비슷한 행동을 하고 있는 것을 알았습니다. 젊은이에 대해서는 반일감정이 엷어졌으며, 제 2 차 세계대전을 역사의 유물로 생각하고 일본을 거부할 것이 아니라 21세기를 향한 좋은 파트너로 생각하고 싶다.」라는 말을 한국의 여러 사람들로부터 들었을 때에는 일본대표의 한사람으로서 너무나 기쁘게 느껴졌습니다.

저의 할아버지도 전쟁때에 조선반도에 갔었답니다. 할아버지는 취하실 때마다 「전쟁은 않채. 전쟁은 사람들을 미치게 만들어. 철들 무렵부터 일본이 제일이며, 침략하는 것이 나라의 명예가 된다고 교육받으면 그것이 진짜라고 믿어버려. 나도 그 예외는 아니였어. 지금에 와서는 되돌이킬 수도 없으니……못할 짓을 해버렸구나.」라고 말하곤 합니다.

저는 어릴때부터 이 말을 듣고 있었 기때문에, 제가 미국에 있을 때도 한국인 친구에게 할아버지께서 말씀하셨던 것을 그대로 들려 주었습니다. 이번에도 이와같은 기회를 통하여 많은 한국분들에게 할아버지의 마음을 전할 수 있어서 매우 기쁘게 생각합니다. 앞으로도 여러가지 장애가 발생하여 한일양국간의 협조가 어려워지는 일도 있으리라고 생각합니다만, 이제부터는 저희들 젊은이의 세대이므로 옛날의 일은 잊어버리고 21세기를 향하여 우정의 폭을 넓혀갔으면 좋겠다고 생각합니다. 한국의 여러분, 일본에 와주셔서 대단히 감사했습니다. JICA의 여러분들께도 여러모로 감사드 립니다.

합숙세미나 감상문

엔도우 유우코 (遠藤 祐子)
회사원

이번 연수에 참가한다는 말이 나왔을 때 솔직한 심정으로 매우 불안하였습니다. 왜냐하면 한국사람들이 품고 있는 반일감정에 대해 여러가지 이야기를 들었기 때문이었습니다. 그러나 그런 이야기들이 이 세미나가 끝나가는 지금은 결국 저도 매스메디어에 놀아나고 있던것에 불과한 것이 아닌가 하고 생각하며 반성하고 있습니다.

한국청년들과의 만남은 대단히 극적인 것으로서 합숙중에도 매일이 놀라움과 발견의 연속이었습니다. 저의 인상으로는 한국사람들은 매우 인정미 넘치며, 상냥하고, 강하고 그리고 정열적입니다. 적극성이 없으며, 감정표현이 능숙치 못한 저와 같은 일본인이 보면 부럽기 그지없습니다. 정말로 훌륭한 민족입니다. 겉보기에는 너무나 닮았으면서도 생활습관, 도덕관념이 다릅니다. 그러나 완전히 이질적이라고는 할 수 없으며, 어딘가 서로 통하는 점이 있습니다. 그것이 매우기뻤으며, 서로 진지하게 이야기하고 이해하려는 노력을 계속해 간다면 반드시 서로 손잡을 수 있는 날이 오리라는 희망을 저에게 안겨 주었습니다.

이 3일간이라는 기간은 너무 짧습니다. 겨우 서로를 알기 시작한 참인데, 너무나 야속합니다.

이와 같은 민간레벨의 교류는 매우 뜻깊은 것이며, 앞으로도 계속 이어졌으면 좋겠습니다. 많은 사람들이 이런 경험을 해 주기를 바라며, 제 자신도 꼭 다시 한번 참가하고 싶습니다.

끝으로 이 처럼 훌륭한 기획을 해 주신JICA의 여러분과 통역자 분들께 깊은 감사드립니다.

사랑해

엔도우 유키야스 (遠藤 行泰)
학생

주인공인 "첫걸음"은 나의 분신이다. 한국과 일본의 우정을 한 발자국이라도 내디딜 수 있기를 바라는 기분에서 이 이름을 사용했다.

첫걸음은 파티에서 아름다운 한국인 여성 美賢과 알게되어 마음이 움직인다. 「너는 금방 외국인에게 빠져 버리니까……」라고 체념하는 겐이치(賢一)에게 「금발에 푸른 눈동자인 아이들에게 품고 있던 감정과는 달라. 우리들 일본인과 꼭 같단말야.」라고 첫걸음은 반론한다.

'봉 오도리'가 끝난 후, 美賢은 한국춤을 선보인다. 자기나라의 문화에 긍지를 가지고 열심히 춤을 추는 美賢에게 첫걸음은 마음을 빼앗긴다. 거기에는 국경같은 건 존재하지 않는다. 첫걸음은 美賢을 알고 싶어 한다.

그러나 거기에서 깨달은 것은 자신의 역사인식의 부족이었다. 첫걸음은 역사의 중요성과, 그러나 전쟁을 한 것은 자신들이 아니라고 하는 복잡한 심경을 겐이치에게 털어 놓는다. 겐이치도 고민에 빠져 버린다. 그리고 이렇게 대꾸한다. 「너 일본이 좋니? (중략) 나는 일본이 좋다고 생각해. 하지만 이유는 모르겠어.」

첫걸음은 자신이 美賢을 사랑하고 있음을 겐이치에게 고백한다. 그리고 첫걸음은 묻는다. 「어떻게 하면 한국인과 일본인이 진정한 친구가 될 수 있니?」라고. 겐이치는 대답한다. 「지금 우리들이 할 수 있는 일이란 한국과 한국인을 알려고 노력하는 일이야.」라고.

공항에서 작별인사를 나누며 美賢은 첫걸음에게 말한다. 「나는 한국에서 태어나 자랐으니까, 또 한국은 우리나라니까, 나는 한국을 사랑하고 있어. 그리고 너의 나라는 이 일본이야.」
마지막 한 귀절은 나에 대한 메시지이다. 일본을 사랑한다는 것이 어떤 것인지를 나는 모른다.

그러나 일본을 사랑할 수 없는 자가 세계를 사랑할 수는 없는 것이겠지. 올바른 역사를 아는 것이 조국을 사랑하는 자의 의무가 아니겠는가. 정의감이 있어야 사랑이 있지 않겠는가.

연극의 마지막에 『사랑해』라는 노래를 한국인과 일본인이 목소리를 합쳐 함께 노래불렀을 때, 아! 나는 이 연극을 했던 것이 다행이었다고 생각했다. 그리고 언젠가 어느 한국학생이 내게 들려준 말의 의미를 알았을 때, 눈물이 앞을 가려 나는 더이상 노래를 부를 수 가 없었다.

「엔도(遠藤)씨, 중요한 것은 한국에 대한 지식이 아니라 정의감 입니다. 엔도씨, 당신은 가장 중요한 것을 확고하게 가지고 있지 않습니까?」

합숙세미나 감상문

오오하시 시게노부 (大橋 繁信)
회사원

이 3일간, 매우 유익한 시간을 보낼 수 있었다고 생각합니다. 당초 이 합숙에 참가하는 것에 약간의 저항감을 느끼고 있었던 것은 틀림 없습니다. 다른참가자도 적지 않게 그렇게 느끼고 있었을 것입니다. 그러나 직접 참가해 보고 패막을 맞이하여 느낀 것은 뭐라고 말할 수 없는 만족감이었습니다. 그것은 무엇에 대하여 라는 것이 아니라, 그저 단순히 마음속에 있는 전부를 담아 싸버리는 것 같은 위대한 힘이 작용하는 것처럼 느꼈습니다. 지금까지 살아 오면서 일상적으로 생활할 때에는 받을 수 없는 자극을 받아 마음이 민감하게 반응한 것이라고 생각합니다.

참가자속에 누구 하나 아는 사람이 없는 속에서, 더우기 한국이라고 하는 이문화의 사람과 교류한다고 하는 입장에 서 보고 비로소 일본인임을 자각하고, 또 일본문화라는 것을 이해할 수 있었다고 생각합니다.

또 한국의 청년들과 교류해 보고 느낀 점은 대륙적인 너그러움이었습니다. 사고방식이나 습관은 일본의 그것과는 적지 않은 차이가 있었으며, 문화의 차이도 알 수 있었습니다. 단지 한국청년의 연애관과 사고방식의 밑바탕에는 동양적 유교사상이 절게 깔려 있어 일본과 비교해도 큰 차이는 없다고 느낀 것은 새로운 발견중의 하나였습니다.

현재의 외교관계를 더 한층 두텁게 하기 위해서는 양국수뇌가 회담하는 것만으로는 불충분하며, 이와 같은 민간레벨의 교류가 매우 중요한 의미를 가져오리라고 생각합니다. 앞으로도 이런 활동을 계속하여 조금이라도 양국이 서로 이해하고 신뢰하는 관계로 접근할 수 있다면 더 없이 좋은 일이라고 생각합니다.

끝으로 귀중한 체험을 할 수 있도록 해 주신 국제협력사업단, 근로후생협회의 여러분들께 깊은 감사드립니다.

합숙세미나 감상문

구보타 히토시 (久保田 仁)
회사원

이번 합숙세미나에 참가하기로 결정되고 나서 출발당일까지 불안이 기대보다 훨씬 컸습니다. 개최지로 향하는 버스속에서도 언어의 장벽을 커버할 수 있는 콤뮤니케이션도 안되는데 어떻게 해야 좋을지를 생각했습니다. 그러나 불안은 거기까지 였으며, 그룹으로 나뉘어 토론에 들어갔을 때는 통역자를 통하여 말로도 콤뮤니케이션을 할 수 있게 되었고, 밤의 스포츠교류회에서는 팀이 하나로 뭉쳐 이길려고 하는 목표를 갖게되었기 때문에 이로써 진짜 팀이 되었다고 생각했습니다.

한국분들은 모두 친절하고, 적극적이며, 너그러운 마음과 표정을 지니고 있었으므로 3일간을 함께 웃으며 즐긴 것이 아주 좋은 추억이 되었습니다. 토론회에서 진지한 화제를 다룰 때는 정말로 자기 의견을 확고하게 가지고 주장한다고

하는 매우 부러운 면도 있었습니다.

정치, 경제, 문화에서부터 일상생활의 화제까지 한국분들의 의견을 들을 수가 있었으므로 한국이라는 나라가 일본과 매우 비슷하고, 한국분들도 별로 다른 나라에 왔다고 하는 느낌은 강하지 않은 듯 했으며, 토론을 통해 한국을 알 수 있었을 뿐만 아니라 일본에 대해서도 새롭게 인식할 수 있어 매우 유익했습니다.

일본인으로서 부끄러운 일입니다만 아무 것도 모르는 무지한 일본인은 한국이라는 나라를 멸시한다고 할까 자신을 우위로 생각하고 있습니다. 저도 그렇게 생각하고 있지 않았다고 하면 거짓말입니다. 모르면 덮어놓고 멋대로 상상하여 그렇게 생각하는 것은 대단히 실례되는 것이라고 생각했습니다. 그리고 조금이라도 많은 사람들에게 한국이라는 나라를 바르게 이해시켜 오해를 풀 수 있도록 작은 힘이나마 보태고 싶다고 생각하며, 제 자신도 주변에 있는 일본인의 고정관념을 고쳐 줄 수 있다면…… 하고 생각하고 있습니다. 그렇게 함으로써 '가깝고도 먼 나라' 한국이 가깝고 친한 나라가 될 것입니다.

이번 합숙세미나를 열어 주신 관계자 여러분 덕분에 매우 뜻 깊은 3일간을 보낼 수 있어 대단히 감사합니다. 앞으로도 많은 일본인을 참가시켜 국제교류의 무대를 더 많이 만들어 주시기 바랍니다. 저도 다시 한번 참가할 수 있는 기회가 주어진다면 꼭 참가하고 싶습니다. 진심으로 감사합니다.

합숙세미나 감상문

나미쓰카 요시유키 (波塚 義幸)
회사원

"百聞이 不如一見"이라는 말이 있다. 정말로 그렇다고 느낀 합숙세미나였다. 신문, TV, 책 등으로 많은 한국정보가 일본인에게 전해 지고 있지만, 직접 본인들과 이야기를 나누어 보았더니 그러한 정보들이 반드시 정확하지는 않았으며, 그 배경이 되는 베이스를 모르기 때문에 충분히 이해할 수 없었던 점을 이번 세미나를 통하여 바로 알 수가 있었다. 또 한국사람들도 현재 일본인들의 사고방식에 대해 올바르게 이해하고 있지 못하다는 것을 느꼈으며, 서로 이해할 수 없기 때문에 혹시 이 상태가 계속되면 언제까지나 과거의 역사를 질질 끌고 가는 것이 아닌가 싶어 걱정스럽다. 이와 같은 합숙세미나를 보다 많이 기획하여 많은 젊은이 들을 참가시켜 일본의 모습, 한국의 모습에 대하여 올바르게 이해할 수 있도록 했으면 좋겠다고 생각한다.

이런 뜻깊은 합숙세미나가 있다는 것을 참가할 때까지 몰랐다는 것을 매우 유감으로 생각하고 있다. JICA 혹은 실시협력단체에 대해 활동내용을 좀더 세상에 PR해 주었으면 하는 생각이다. 실제의 활동내용, 그에 따라 얻어진 결과, 남아 있는 문제점 등을 PR하여 많은 사람들에게 그 존재를 올바르게 알리고, 국제교류의 의미를 생각하도록 했으면 좋겠다고 생각하며, 그럴 필요가 있다고 느꼈다.

합숙에서 언어장벽을 분명히 느꼈지만, 마음이 있으면 어떻게든 해결된다는 것을 재확인한 세미나였다. 특히 술과 노래와 춤은 세계공통으로, 누구와도 마음을 주고 받고 융화될 수 있는 것이라고 생각한다. 그 중에서도 예능대회 등에서는 자연스러운 사람들의 생활을 알수 있었다고 느꼈으며, 한국이 일본문화의 원류임을 느꼈다. 한국여성의 치마저고리는 매우 아름답고, 그 의상을 입고불러 준 한국노래는 가사는 이해할 수 없었지만 너무나 감동적이었다. 유감스럽게도 일본에서는 이웃나라 임에도 불구하고 그 아름다움이 전해져 있지 않고, 바르게 인식되지 않아, 잘못된 편견으로 보여지고 있다는 생각에 안타깝기 그지없었다.

앞으로 이런 교류를 개최하는 곳이 있다면 나